

4. 2020 年東京大会個別計画（会場等ごと、競技ごと、全体計画など）の内容

4.1 全体計画

4.1.1 環境を優先する 2020 年東京大会

2020 年東京大会では、以下の 3 つの基本的な考え方のもと、「環境を優先する 2020 年東京大会」を目指している。

○柱 1：環境負荷の最小化

環境ガイドラインの柱には、カーボンニュートラルな大会を実現するため、再生可能エネルギー、公共交通機関、低エネルギー車両の活用、廃棄物の再生利用の考え方などを据え、エネルギー・資源の消費や二酸化炭素の排出を縮小する。

○柱 2：自然と共生する都市環境計画

2020 年東京大会は、都市の緑化を促進させる契機にもなり、自然環境と共生する快適な都市環境をより楽しめるようになる。

会場設計・施設は、エネルギー・資源・水の保全の観点から持続可能なデザインとする。2020 年東京大会の会場及びその周辺は、東京臨海部を中心に緑地と緑の回廊で東京の中心部と結ばれ、そこに息づく多様な生物に特別に配慮する。

○柱 3：スポーツを通じた持続可能な社会づくり

2020 年東京大会は、スポーツを通じて地球環境・地域環境の大切さを発信する大会である。

良好な環境は、優れたパフォーマンスを引き出す必要条件である。

一方、スポーツの与える喜び・感動や、模範となるモデルや優れた手本による影響力は、人を具体的な行動へと駆り立てる力を持つ。

したがって、スポーツを通じた持続可能な社会づくりも、2020 年東京大会の柱であり、強力かつ重要な指針として、教育・参加・協調などの様々なアプローチにより推進していく。

4.1.2 開催期間

2020 年東京大会の開催期間は、以下に示すとおりである。

- | | |
|--------------|--|
| ○オリンピック競技大会 | 2020 年 7 月 24 日～8 月 9 日
(開会式 1 日間、競技期間 16 日) |
| ○パラリンピック競技大会 | 2020 年 8 月 25 日～9 月 6 日
(開会式 1 日間、競技期間 12 日間) |

4.1.3 会場配置（コンパクトな会場配置）

2020 年東京大会の会場配置コンセプトの特徴は、以下に示すとおりである。

- ## ○テーマを持った運営上の2つのゾーン

大会のコンセプトである「コンパクト」に沿ってその過去と未来が独特な形で融合され、過去の遺産を守りながら、未来に向かって「未来をつかむ (Discover Tomorrow)」ことができる都市であることを世界に示している。会場は 1964 年東京大会のレガシーが残るヘリテッジゾーンと、未来の都市開発モデルである東京ベイゾーンという 2 つのテーマ及び運営ゾーンに位置する。

- ### ○コンパクトな会場配置コンセプト

東京都内にある 31 会場等のうち 28 会場は選手村から半径 8km 圏内にあり、選手のことを最優先に考えた、極めてコンパクトな配置となっている。

- ## ○オリンピック・レガシーのすばらしさを証明

計画されている 37 の会場のうち 15 会場(41%)は既存のものであり、その中の 2 会場は 2020 年東京大会のために恒久的な改修が必要となる。既存会場のうち 3 会場は 1964 年の東京大会の時に整備されたものであり、当時水泳とバスケットボールの会場だった国立代々木競技場は 2020 年東京大会ではハンドボールの会場に、体操や水球が行われた東京体育館は卓球の会場、日本武道館は 1964 年東京大会と同様、2020 年東京大会も柔道の会場として利用される。

2020 年東京大会に向けて建設が予定されている競技会場は、総競技会場数のうち 22 会場（59%）であり、そのうちの 11 会場は東京のレガシーとして残す計画である。こうした恒久施設のうち、1964 年のオリンピックスタジアムであった国立霞ヶ丘競技場は、テストイベントが行われる 2019 年までの完成を予定しており、2020 年東京大会では開・閉会式、陸上競技、サッカー及びラグビーの会場となる。武蔵野の森総合スポーツ施設は、東京都西部の多摩地域に 2016 年の完成を目指しており、2020 年東京大会では近代五種が行われる予定である。

会場の選定、建設状況及び立地は、東京都の中長期計画「2020年の東京」を中心に、社会、開発、持続可能性に関わる東京都の計画に合わせるとともに、2020年東京大会を選手重視のコンパクトな大会にすることを目指している。

4.1.4 オリンピック・レガシーの継承

オリンピック・レガシーの中心を象徴する既存会場は、1964 年東京大会以降も継続して使われ、定期的に改修されている。そのため、当時の会場は東京の活力の中心的役割を果たしており、56 年後も、東京及び日本がスポーツを重視し、環境にやさしいという視点を強く持っていることの証となる。

過去の遺産を守りながら未来へのビジョンを示すため、競技会場を、運営・テーマにより 2 つのゾーンに分ける。一つは 1964 年東京大会のレガシーが集積するヘリテッジゾーン、もう一つは未来に向けて発展する東京の姿を象徴する東京ベイゾーンである。

2020 年東京大会のオリンピックスタジアムが位置するヘリテッジゾーンは、1964 年東京大会のオリンピック・レガシーを今に語り継ぐ場所である。1964 年東京大会のために建設された主要会場を、2020 年東京大会で使用することは、次の世代へのオリンピックの新たなレガシーを創造し、継承していく精神を示すこととなる。

4.2 会場等の位置及び内容

4.2.1 会場等

実施段階環境アセスメントの対象となる会場等の概要は、表 4.2-1～31 に示すとおりである。

なお、各会場等の位置及び内容は、現時点での計画であり、今後、計画の進捗に伴い変更される可能性がある。

(1) オリンピックスタジアム

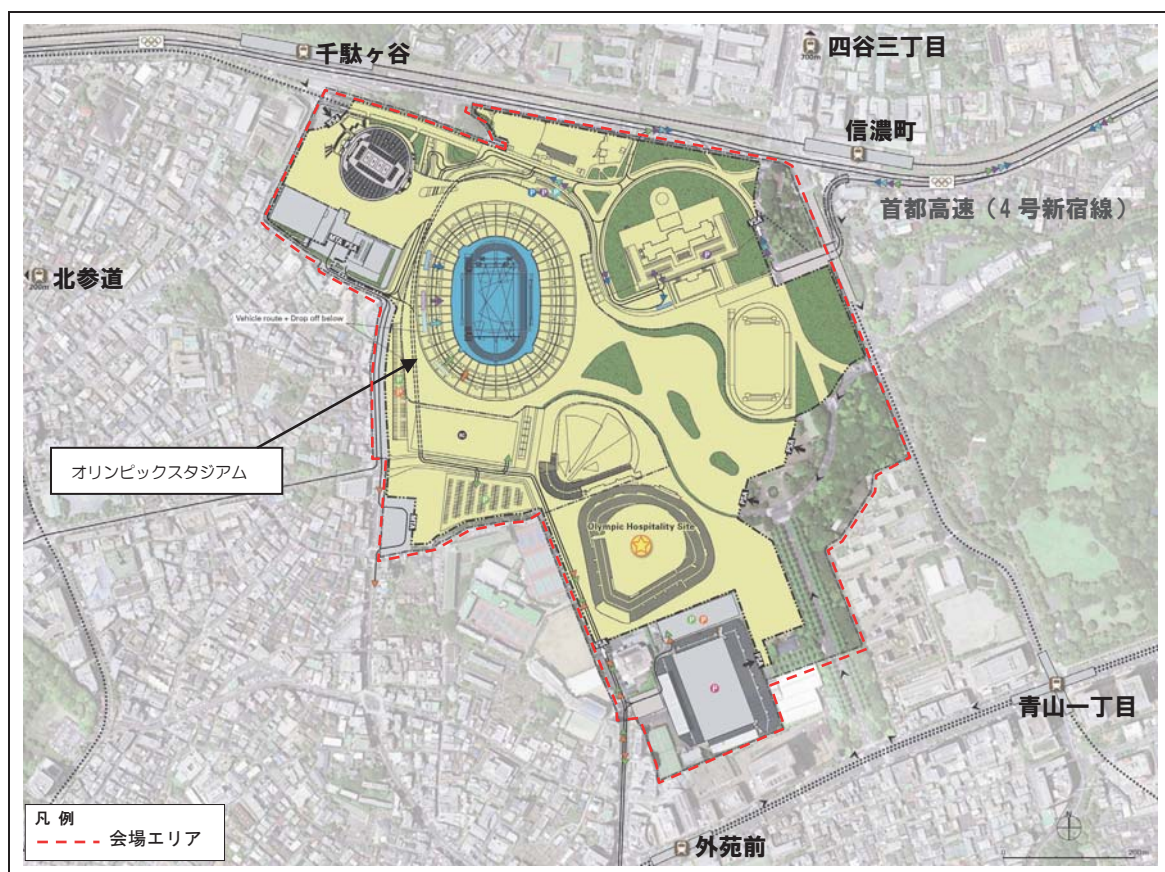
オリンピックスタジアムの概要は表 4.2-1 に、会場施設等の配置は、図 4.2-1 に示すとおりである。

1964 年東京大会のオリンピックスタジアムであり、2019 年迄に最新鋭の競技場に生まれ変わる予定である。2020 年東京大会では、開・閉会式、陸上競技（トラック、競歩、マラソン）、サッカー及びラグビーの会場となる。この 8 万人収容のスタジアムは日本スポーツ振興センターが所有し、2019 年のラグビーワールドカップをはじめ、サッカーの国際試合や陸上競技の日本選手権など文化・スポーツ関連イベントに使用される予定である。

表 4.2-1 会場の概要（オリンピックスタジアム）

項目	内容
競技	オリンピック：開・閉会式、陸上競技（トラック、競歩、マラソン等）、サッカー（決勝）、ラグビー
	パラリンピック：開・閉会式、陸上競技
会場計画の概要	新設恒久会場（計画中）
	総座席数：80,000 席
	大会後の利用：多目的スタジアム

【イメージ図】

注) 会場エリアとは、会場事業計画地及びその周辺地域を指す。

図 4.2-1 会場施設等の配置図（オリンピックスタジアム）

(2) 東京体育館

東京体育館の概要は表 4.2-2 に、会場施設等の配置は、図 4.2-2 に示すとおりである。

東京体育館は、1964 年東京大会における体操及び水球の会場であり、2020 年東京大会では卓球の会場となる。

表 4.2-2 会場の概要（東京体育館）

項目	内容
競技	オリンピック：卓球
	パラリンピック：卓球
会場計画の概要	既存会場（改修なし）
	総座席数：8,000 席
	大会後の利用：スポーツアリーナ

【イメージ図】





注) 会場エリアとは、会場事業計画地及びその周辺地域を指す。

図 4.2-2 会場施設等の配置図（東京体育館）

(3) 国立代々木競技場

国立代々木競技場の概要は表 4.2-3 に、会場施設等の配置は、図 4.2-3 に示すとおりである。

国立代々木競技場は、1964 年東京大会の競泳及びバスケットボールの会場であり、2020 年東京大会ではハンドボール及びウィルチェアーラグビーの会場となる。

表 4.2-3 会場の概要（国立代々木競技場）

項目	内容
競技	オリンピック：ハンドボール
	パラリンピック：ウィルチェアーラグビー
会場の概要	既存会場（改修なし）
	総座席数：12,000 席
	大会後の利用：スポーツアリーナ

【イメージ図】





注) 会場エリアとは、会場事業計画地及びその周辺地域を指す。

図 4.2-3 会場施設等の配置図（国立代代木競技場）

(4) 日本武道館

日本武道館の概要は表 4.2-4 に、会場施設等の配置は、図 4.2-4 に示すとおりである。

日本武道館は、1964 年東京大会の柔道の会場であり、2020 年東京大会でも柔道の会場となる。

表 4.2-4 会場の概要（日本武道館）

項目	内容
競技	オリンピック：柔道
	パラリンピック：柔道
会場計画の概要	既存会場（改修あり）
	総座席数：11,000 席
	大会後の利用：武道場
【イメージ図】	
	



注) 会場エリアとは、会場事業計画地及びその周辺地域を指す。

図 4.2-4 会場施設等の配置図 (日本武道館)

(5) 皇居外苑

皇居外苑の概要は表 4.2-5 に、会場施設等の配置は、図 4.2-5 に示すとおりである。

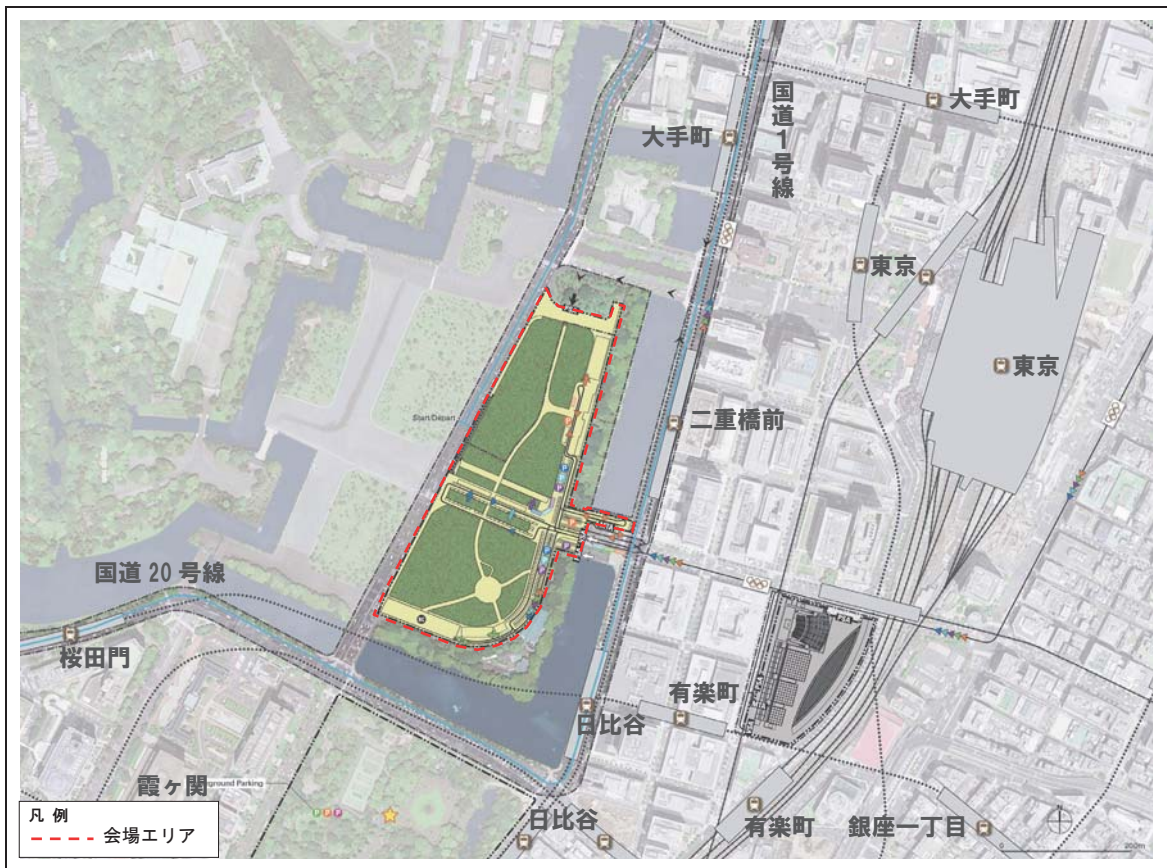
皇居外苑は、自転車競技（ロード・レース）のスタート地点となる。また、観光地として人気があるだけでなく、都民の憩いの場としても親しまれている。

表 4.2-5 会場の概要（皇居外苑）

項目	内容
競技	オリンピック：自転車競技（ロード・レース：スタート）
	パラリンピック：なし
会場計画の概要	仮設
	総座席数：1,000 席
	大会後の利用：公共公園

【イメージ図】





注) 会場エリアとは、会場事業計画地及びその周辺地域を指す。

図 4.2-5 会場施設等の配置図（皇居外苑）

(6) 東京国際フォーラム

東京国際フォーラムの概要は表 4. 2-6 に、会場施設等の配置は、図 4. 2-6 に示すとおりである。

東京国際フォーラムは、ウェイトリフティングが行われる会場であり、東京都の中心部に位置し、日本を代表するビジネス街である丸の内と大手町に囲まれている。

表 4. 2-6 会場の概要（東京国際フォーラム）

項目	内容
競技	オリンピック： ウェイトリフティング
	パラリンピック： なし
会場計画の概要	既存会場（改修なし）
	総座席数： 5, 000 席
	大会後の利用： 多目的会議場

【イメージ図】





注) 会場エリアとは、会場事業計画地及びその周辺地域を指す。

図 4.2-6 会場施設等の配置図（東京国際フォーラム）

(7) 国技館

国技館の概要は表 4.2-7 に、会場施設等の配置は、図 4.2-7 に示すとおりである。

国技館は、ボクシングが行われる会場となる。日本の国技である「相撲」の聖地である国技館は、ボクシングにとって理想的なすり鉢状の会場であり、観客は四方から競技を観戦することができる。

表 4.2-7 会場の概要（国技館）

項目	内容
競技	オリンピック：ボクシング
	パラリンピック：なし
会場計画の概要	既存会場（改修なし）
	総座席数：10,000 席
	大会後の利用：相撲場

【イメージ図】





注) 会場エリアとは、会場事業計画地及びその周辺地域を指す。

図 4.2-7 会場施設等の配置図（国技館）

(8) 有明アリーナ

有明アリーナの概要は表 4.2-8 に、会場施設等の配置は、図 4.2-8 に示すとおりである。

有明アリーナは、バレーボール（インドア）及びシッティングバレーボールの会場となる。

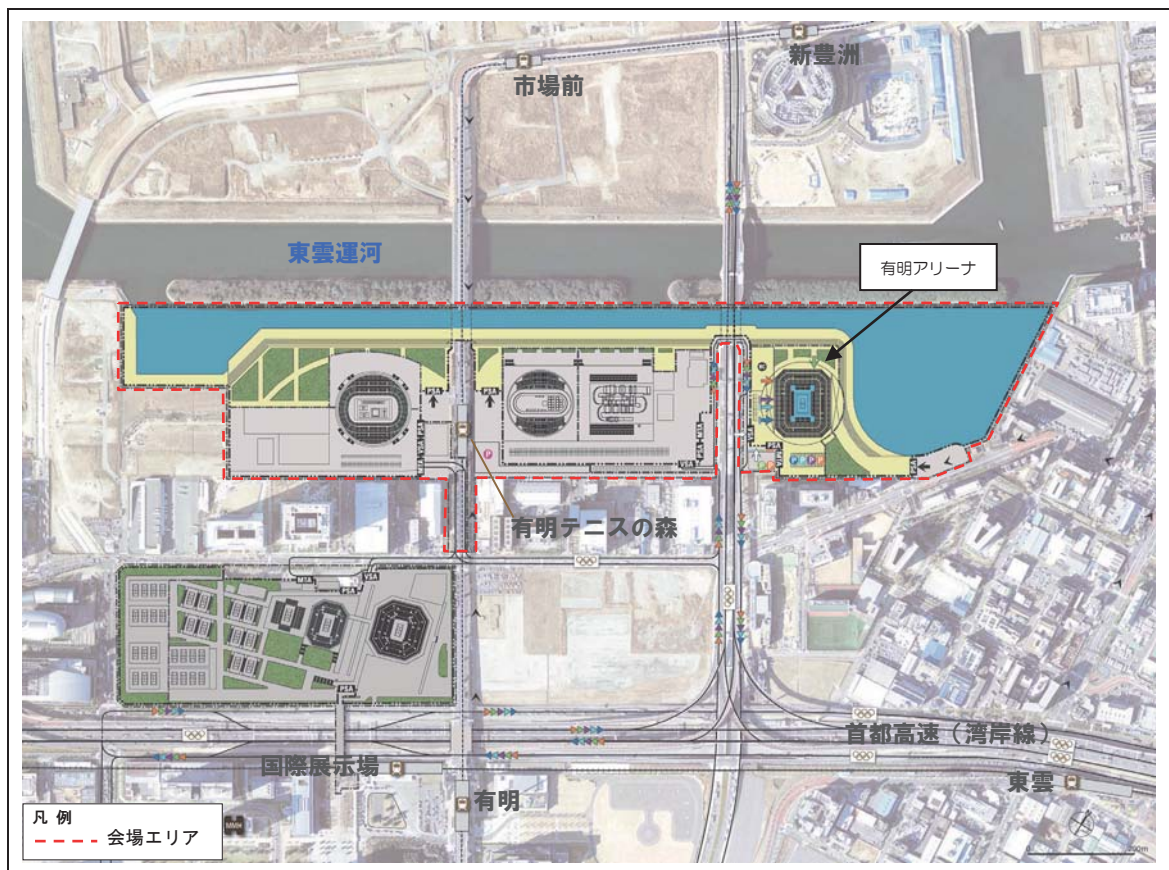
大会後は、様々な室内競技大会やイベントを行うことができる大規模体育館となり、注目を集めるバレーボールの国内リーグの会場となるほか、東京が、これまで多数開催してきたような、国際大会の際も使用される予定である。

表 4.2-8 会場の概要（有明アリーナ）

項目	内容
競技	オリンピック：バレーボール（インドア）
	パラリンピック：シッティングバレーボール
会場計画の概要	新設恒久会場
	総座席数：15,000 席
	大会後の利用：多目的アリーナ

【イメージ図】





注) 会場エリアとは、会場事業計画地及びその周辺地域を指す。

図 4.2-8 会場施設等の配置図（有明アリーナ）

(9) 有明BMXコース

有明BMXコースの概要は表 4.2-9 に、会場施設等の配置は、図 4.2-9 に示すとおりである。

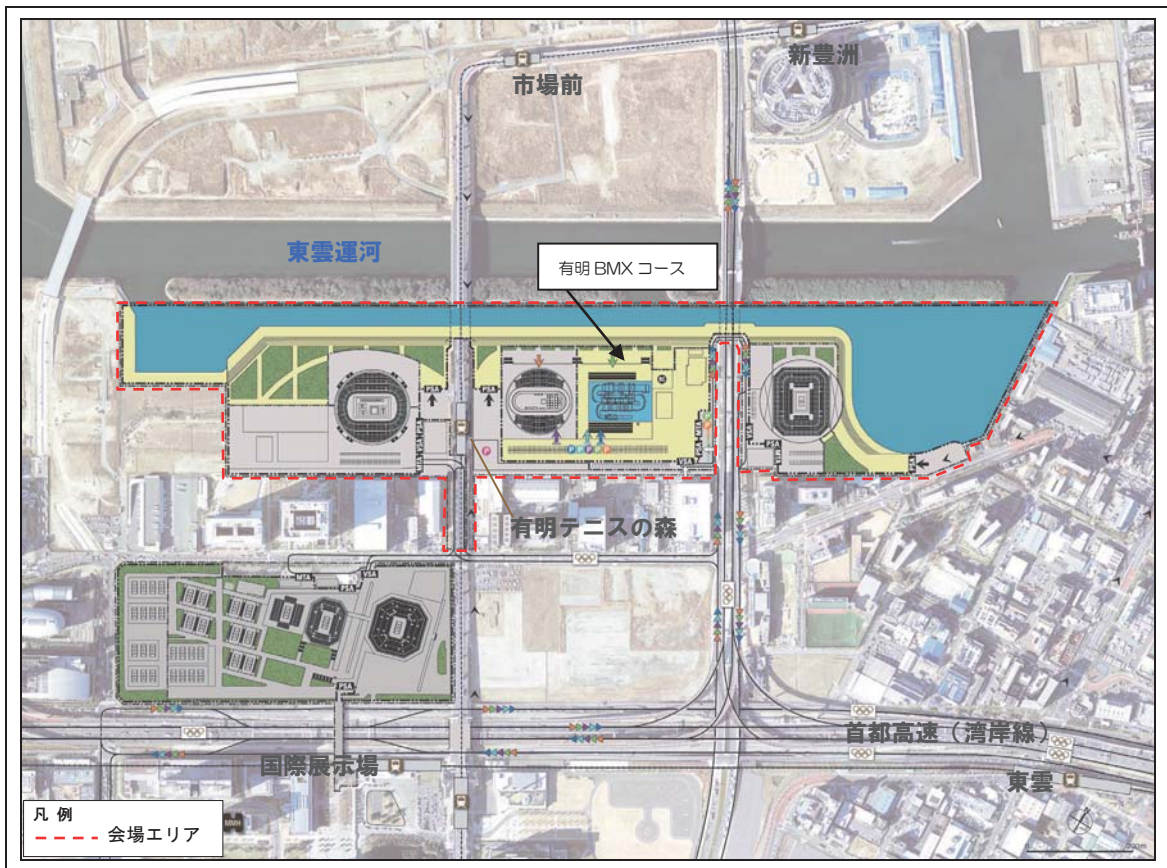
有明BMXコースは、仮設の会場であり、自転車競技（BMX）に使用される。

表 4.2-9 会場の概要（有明BMXコース）

項目	内容
競技	オリンピック：自転車競技（BMX）
	パラリンピック：なし
会場計画の概要	仮設
	総座席数：5,000 席
	大会後の利用：開発用地

【イメージ図】





注) 会場エリアとは、会場事業計画地及びその周辺地域を指す。

図 4.2-9 会場施設等の配置図 (有明 BMX コース)

(10) 有明ベロドローム

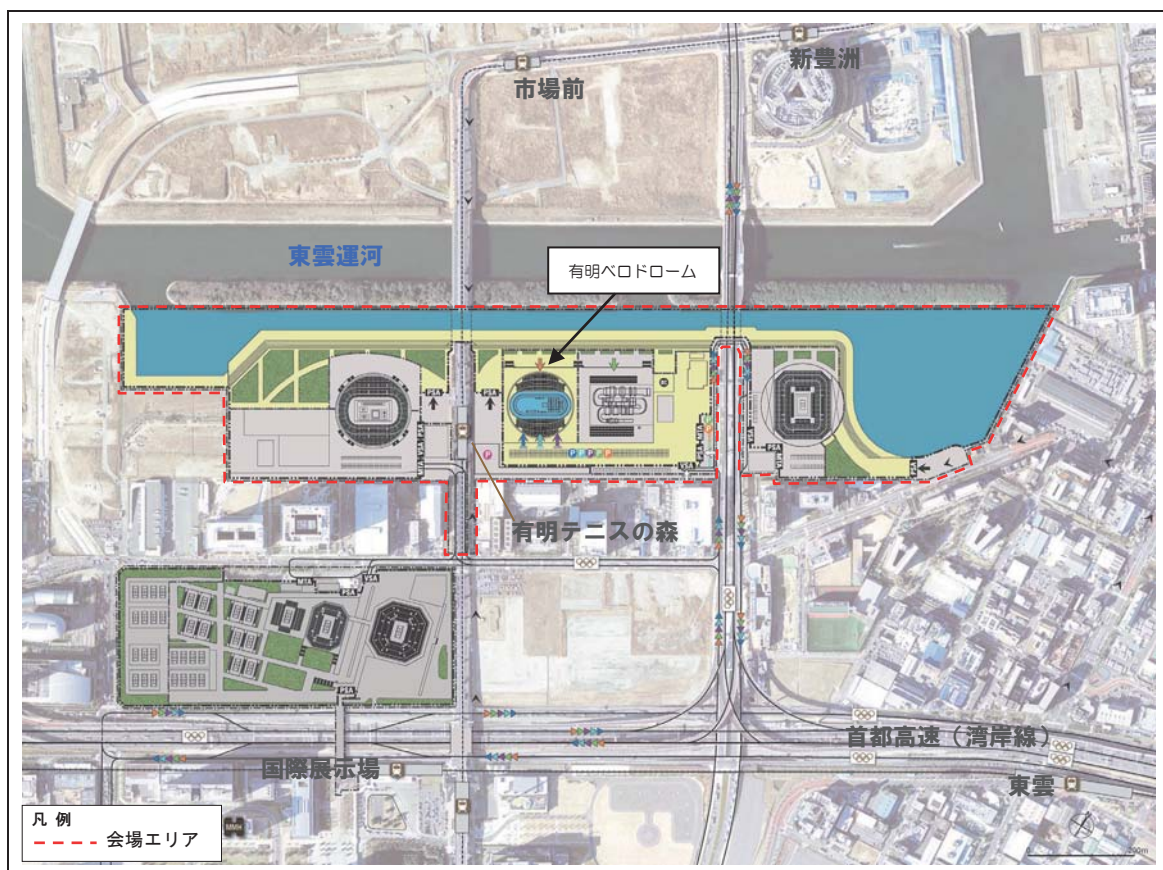
有明ベロドロームの概要は表 4.2-10 に、会場施設等の配置は、図 4.2-10 に示すとおりである。
有明ベロドロームは、仮設の会場であり、自転車競技(トラック・レース)に使用される。

表 4.2-10 会場の概要（有明ベロドローム）

項目	内容
競技	オリンピック：自転車競技（トラック・レース）
	パラリンピック：自転車競技（トラック・レース）
会場計画の概要	仮設
	総座席数：5,000 席
	大会後の利用：開発用地

【イメージ図】





注) 会場エリアとは、会場事業計画地及びその周辺地域を指す。

図 4.2-10 会場施設等の配置図（有明ペロドローム）

(11) 有明体操競技場

有明体操競技場の概要は表 4.2-11 に、会場施設等の配置は、図 4.2-11 に示すとおりである。

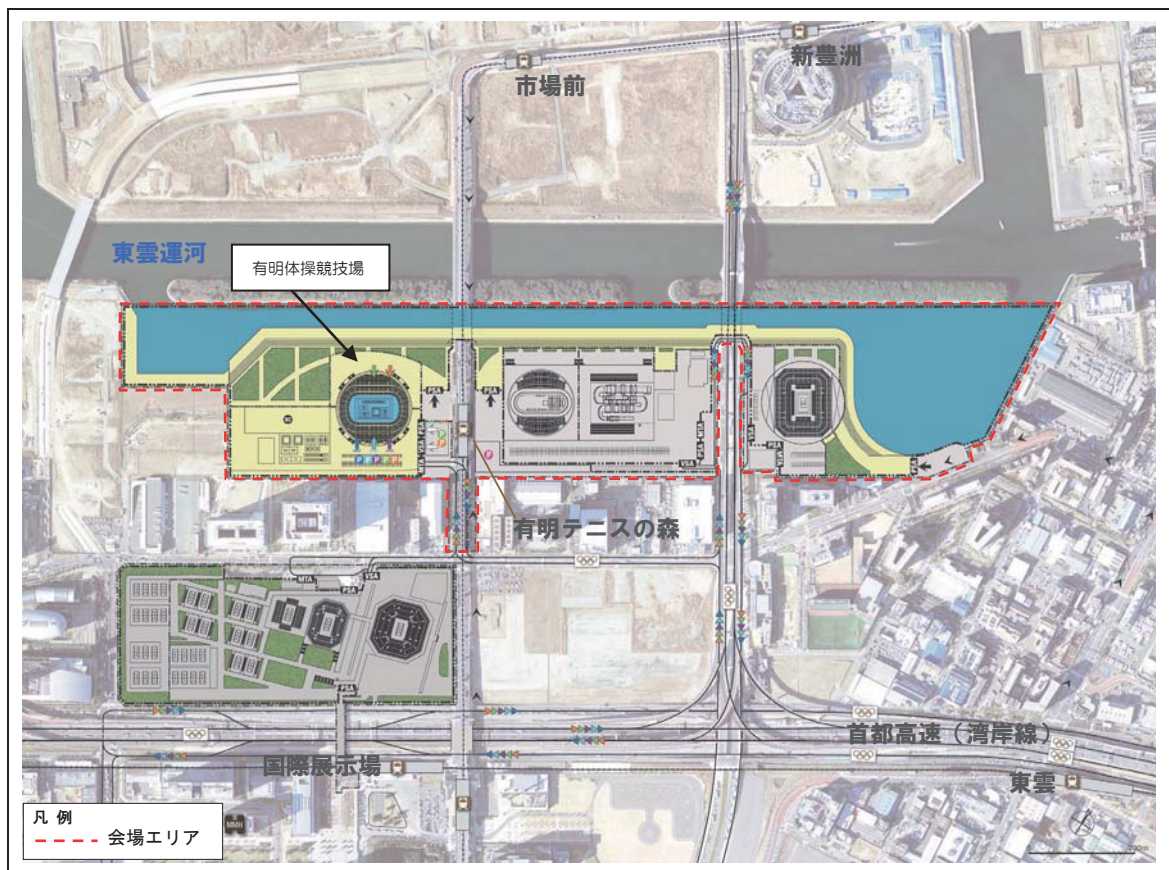
有明体操競技場は、仮設の会場であり、体操競技（体操、新体操、トランポリン）及びゴールボールに使用される。

表 4.2-11 会場の概要（有明体操競技場）

項目	内容
競技	オリンピック：体操(体操、新体操、トランポリン)
	パラリンピック：ゴールボール
会場計画の概要	仮設
	総座席数：12,000 席
	大会後の利用：開発用地

【イメージ図】





注) 会場エリアとは、会場事業計画地及びその周辺地域を指す。

図 4.2-11 会場施設等の配置図（有明体操競技場）

(12) 有明テニスの森

有明テニスの森の概要は、表 4. 2-12 に、会場施設等の配置は、図 4. 2-12 に示すとおりである。

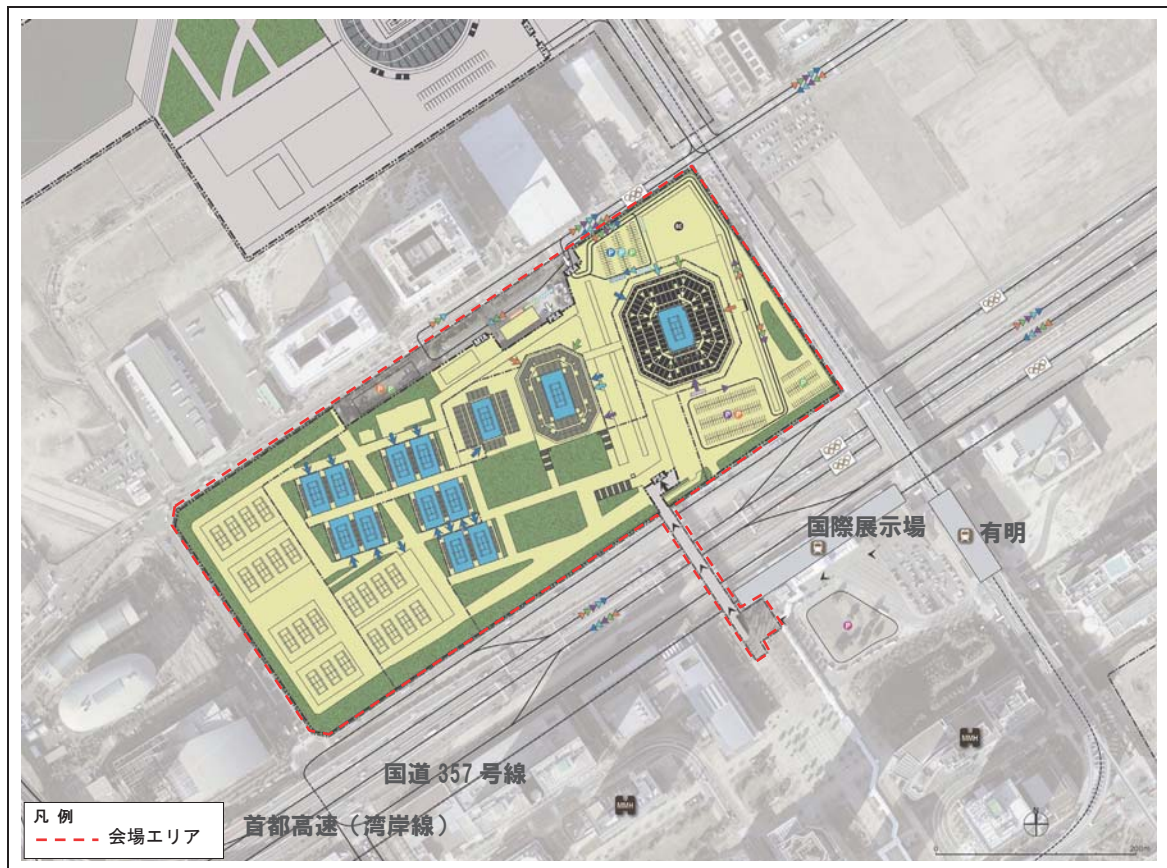
有明テニスの森は、テニスの会場であり、全天候型コートとスライド式開閉屋根を備えた 1 万人を収容できる多目的スタジアム（有明コロシアム）を有している。

表 4. 2-12 会場の概要（有明テニスの森）

項目	内容
競技	オリンピック：テニス
	パラリンピック：車いすテニス
会場計画の概要	既存会場（改修あり）
	総座席数：20,500 席
	大会後の利用：テニス場

【イメージ図】





注) 会場エリアとは、会場事業計画地及びその周辺地域を指す。

図 4.2-12 会場施設等の配置図（有明テニスの森）

(13) お台場海浜公園

お台場海浜公園の概要は表 4.2-13 に、会場施設等の配置は、図 4.2-13 に示すとおりである。

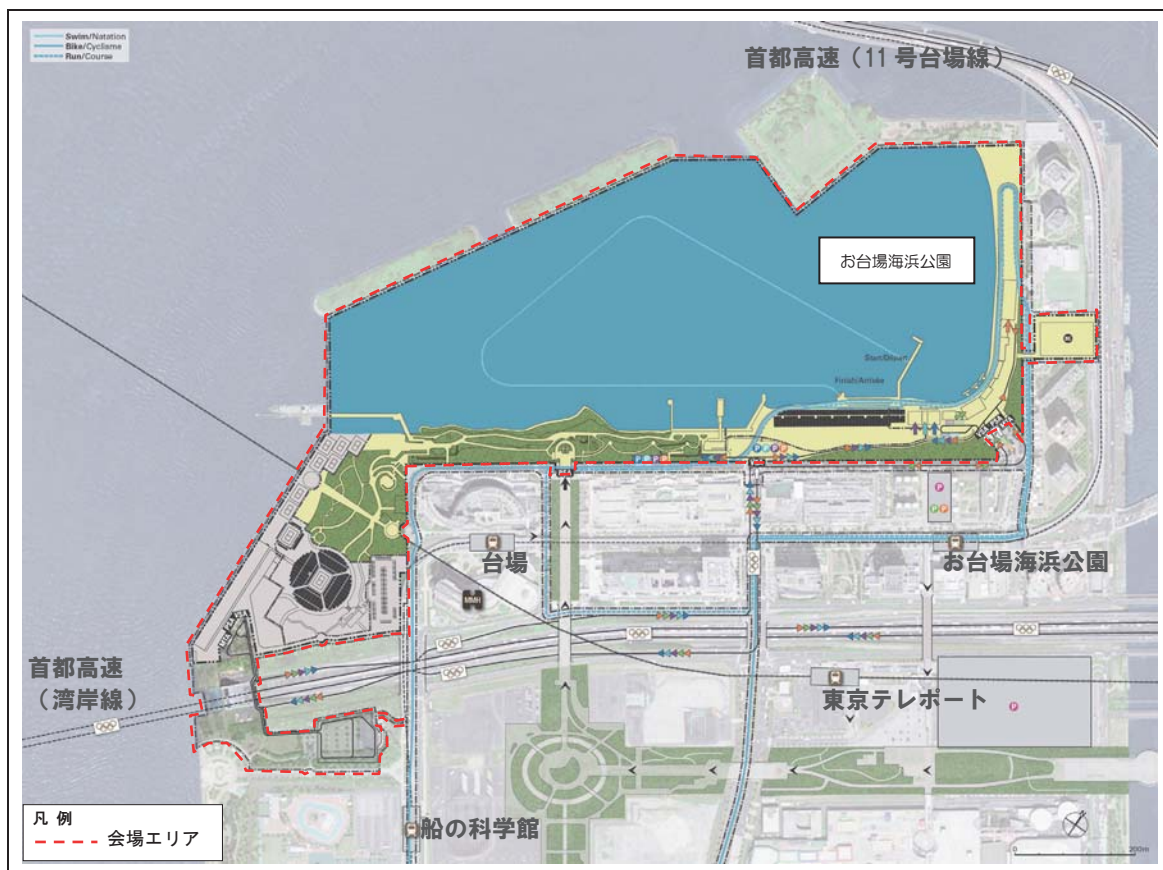
お台場海浜公園は、仮設の会場であり、トライアスロン、水泳（マラソン 10km）及び自転車競技（ロード・レース）が行われる。

表 4.2-13 会場の概要（お台場海浜公園）

項目	内容
競技	オリンピック：トライアスロン、水泳（マラソン 10km）
	パラリンピック：自転車競技（ロード・レース）、パラトライアスロン
会場計画の概要	仮設
	総座席数：10,000 席
	大会後の利用：公共公園

【イメージ図】





注) 会場エリアとは、会場事業計画地及びその周辺地域を指す。

図 4.2-13 会場施設等の配置図（お台場海浜公園）

(14) 潮風公園

潮風公園の概要は表 4.2-14 に、会場施設等の配置は、図 4.2-14 に示すとおりである。

潮風公園は、臨海副都心最大の公園で、バレーボール（ビーチバレーボール）が行われる。

表 4.2-14 会場の概要（潮風公園）

項目	内容
競技	オリンピック： バレーボール（ビーチバレーボール）
	パラリンピック： なし
会場計画の概要	仮設
	総座席数： 12,000 席
	大会後の利用： 公共公園

【イメージ図】





注) 会場エリアとは、会場事業計画地及びその周辺地域を指す。

図 4.2-14 会場施設等の配置図（潮風公園）

(15) 東京ビッグサイト

東京ビッグサイトの概要は表 4. 2-15 に、会場施設等の配置は、図 4. 2-15 に示すとおりである。

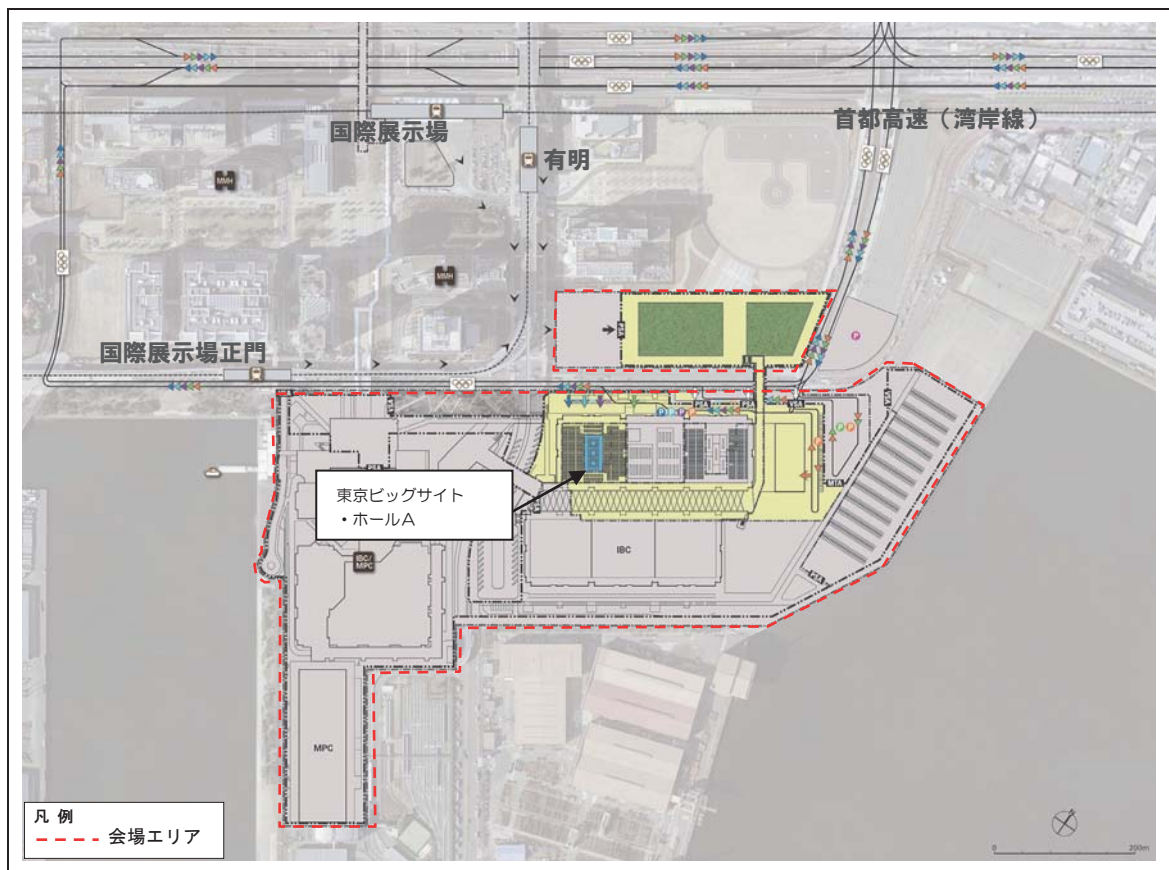
東京ビッグサイトは、日本最大の国際会議・展示施設であり、ホールAでレスリング及びパワーリフティング、ホールBではフェンシング、テコンドー及びボッチャが行われる。

表 4. 2-15 会場の概要（東京ビッグサイト）

項目	内容
競技	オリンピック：レスリング、フェンシング、テコンドー
	パラリンピック：パワーリフティング、ボッチャ
会場計画の概要	既存会場（改修あり）
	総座席数：18,000 席
	大会後の利用：国際会議・展示施設

【イメージ図】





注) 会場エリアとは、会場事業計画地及びその周辺地域を指す。

図 4.2-15(1) 会場施設等の配置図（東京ビッグサイト・ホールA）



注) 会場エリアとは、会場事業計画地及びその周辺地域を指す。

図 4.2-15(2) 会場施設等の配置図（東京ビッグサイト・ホールB）

(16) 大井ホッケー競技場

大井ホッケー競技場の概要は表 4. 2-16 に、会場施設等の配置は、図 4. 2-16 に示すとおりである。

大井ホッケー競技場は、大井ふ頭中央海浜公園に新設される会場であり、ホッケー、視覚障害者 5 人制サッカー及び脳性麻痺者 7 人制サッカーが行われる。

大会後は、収容可能人数 4,000 人規模のホッケー場に改修され、国内及び国際競技大会が開催できるホッケー場として、国内のホッケー普及、強化の拠点となる予定である。

表 4. 2-16 会場の概要（大井ホッケー競技場）

項目	内容
競技	オリンピック：ホッケー
	パラリンピック：視覚障害者 5 人制サッカー、脳性麻痺者 7 人制サッカー
会場計画の概要	新設恒久会場
	総座席数：15,000 席
	大会後の利用：スポーツセンター

【イメージ図】





注) 会場エリアとは、会場事業計画地及びその周辺地域を指す。

図 4.2-16 会場施設等の配置図（大井ホッケー競技場）

(17) 海の森クロスカントリーコース

海の森クロスカントリーコースの概要は表 4. 2-17 に、会場施設等の配置は、図 4. 2-17 に示すとおりである。

海の森クロスカントリーコースは、仮設の会場であり、馬術(クロスカントリー)が行われる。

表 4. 2-17 会場の概要（海の森クロスカントリーコース）

項目	内容
競技	オリンピック：馬術(クロスカントリー)
	パラリンピック：なし
会場計画の概要	仮設
	総座席数：20,000 人(立見席)
	大会後の利用：公共公園

【イメージ図】





注) 会場エリアとは、会場事業計画地及びその周辺地域を指す。

図 4.2-17 会場施設等の配置図（海の森クロスカントリーコース）

(18) 海の森水上競技場

海の森水上競技場の概要は表 4.2-18 に、会場施設等の配置は、図 4.2-18 に示すとおりである。

海の森水上競技場は、ボート、カヌーの会場となり、将来、都民のレクリエーションの場、憩いの場にもなる予定である。

表 4.2-18 会場の概要（海の森水上競技場）

項目	内容
競技	オリンピック：ボート、カヌー（スプリント）
	パラリンピック：ボート、パラカヌー
会場計画の概要	新設恒久会場
	総座席数：24,000 席（うち、立見席 10,000 席）
	大会後の利用：ボート、カヌー場

【イメージ図】





注) 会場エリアとは、会場事業計画地及びその周辺地域を指す。

図 4.2-18 会場施設等の配置図（海の森水上競技場）

(19) 海の森マウンテンバイクコース

海の森マウンテンバイクコースの概要は表 4.2-19 に、会場施設等の配置は、図 4.2-19 に示すとおりである。

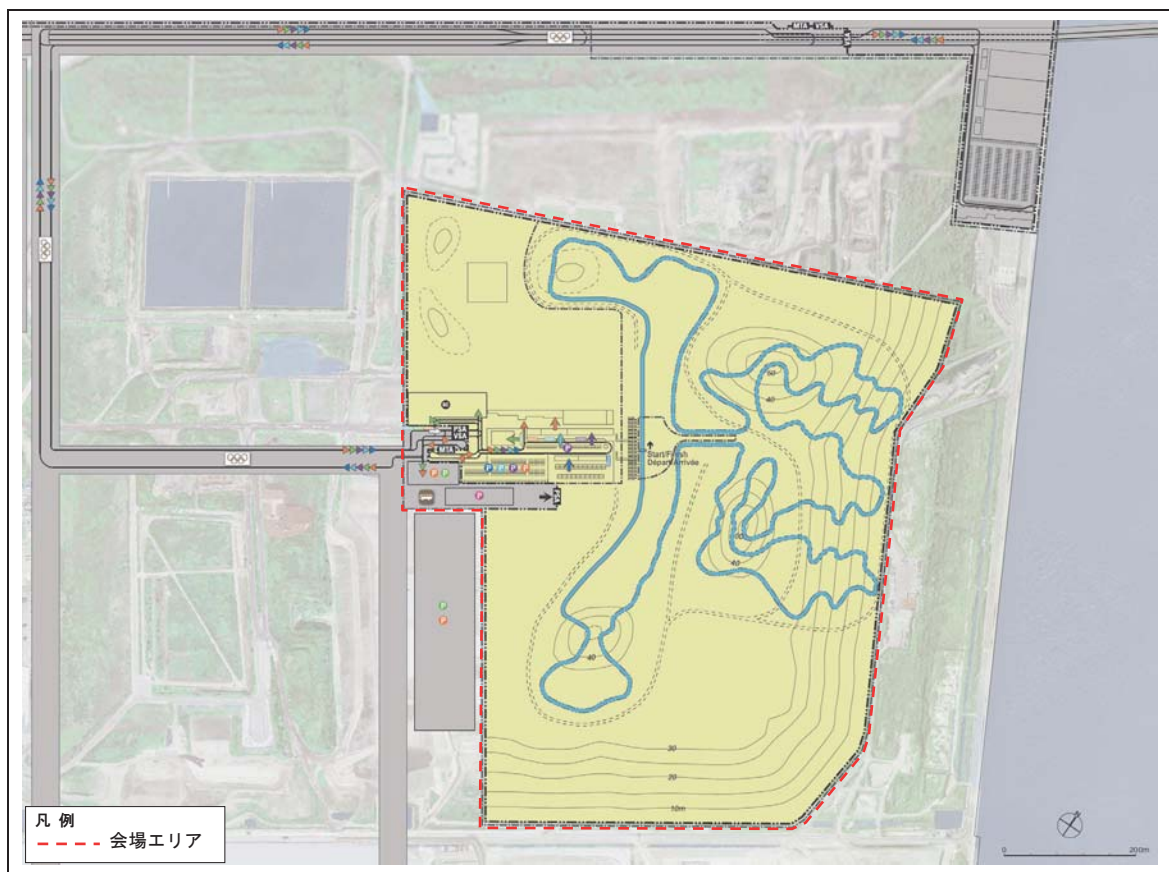
海の森マウンテンバイクコースは、仮設の会場であり、自転車競技（マウンテンバイク）が行われる。

表 4.2-19 会場の概要（海の森マウンテンバイクコース）

項目	内容
競技	オリンピック：自転車競技（マウンテンバイク）
	パラリンピック：なし
会場計画の概要	仮設
	総座席数：25,000 席（うち、立見席 23,000 席）
	大会後の利用：開発用地

【イメージ図】

An aerial perspective rendering of the temporary venue for the Sea Forest Mountain Bike Course. The image shows a winding blue race track snaking through a green, hilly landscape. In the center, there is a large, temporary stadium with a blue roof and seating area. The venue is situated near a body of water in the foreground, with a dense line of trees and a road separating it from the water. The background shows more green hills under a clear blue sky.



注) 会場エリアとは、会場事業計画地及びその周辺地域を指す。

図 4.2-19 会場施設等の配置図（海の森マウンテンバイクコース）

(20) 若洲オリンピックマリーナ

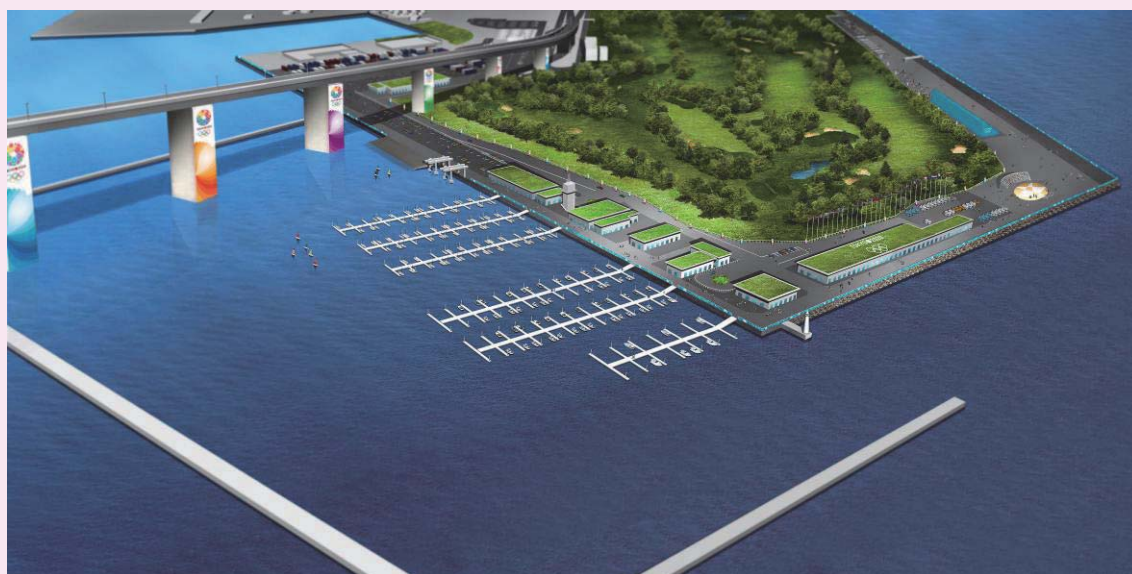
若洲オリンピックマリーナの概要は表 4.2-20 に、会場施設等の配置は、図 4.2-20 に示すとおりである。

若洲オリンピックマリーナは、セーリング会場となる。大会後は、日本有数のセーリング会場となり、東京のみならず首都圏広域のセーリング競技の普及の拠点となる予定である。

表 4.2-20 会場の概要（若洲オリンピックマリーナ）

項目	内容
競技	オリンピック：セーリング
	パラリンピック：セーリング
会場計画の概要	新設恒久会場
	総座席数：5,000 席（うち、立見席 3,000 席）
	大会後の利用：マリーナ

【イメージ図】





注) 会場エリアとは、会場事業計画地及びその周辺地域を指す。

図 4.2-20 会場施設等の配置図（若洲オリンピックマリーナ）

(21) 葛西臨海公園

葛西臨海公園の概要は表 4.2-21 に、会場施設等の配置は、図 4.2-21 に示すとおりである。

葛西臨海公園は、カヌー（スラローム）の会場となり、大会後には、カヌー競技のほか、ラフティングなどのレクリエーションにも使える施設が残る予定である。

表 4.2-21 会場の概要（葛西臨海公園）

項目	内容
競技	オリンピック：カヌー（スラローム）
	パラリンピック：なし
会場計画の概要	新設恒久会場
	総座席数：15,000 席（うち、立見席 3,000 席）
	大会後の利用：カヌー場

【イメージ図】





注）会場エリアとは、会場事業計画地及びその周辺地域を指す。

図 4.2-21 会場施設等の配置図（葛西臨海公園）

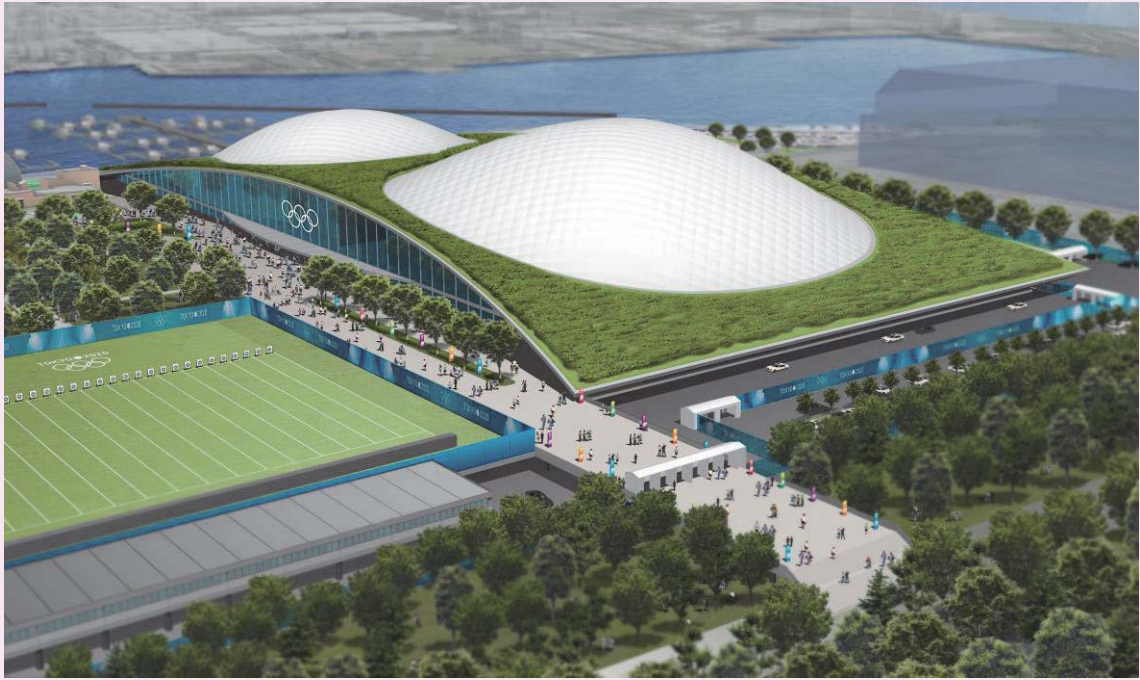
(22) 夢の島ユース・プラザ・アリーナA

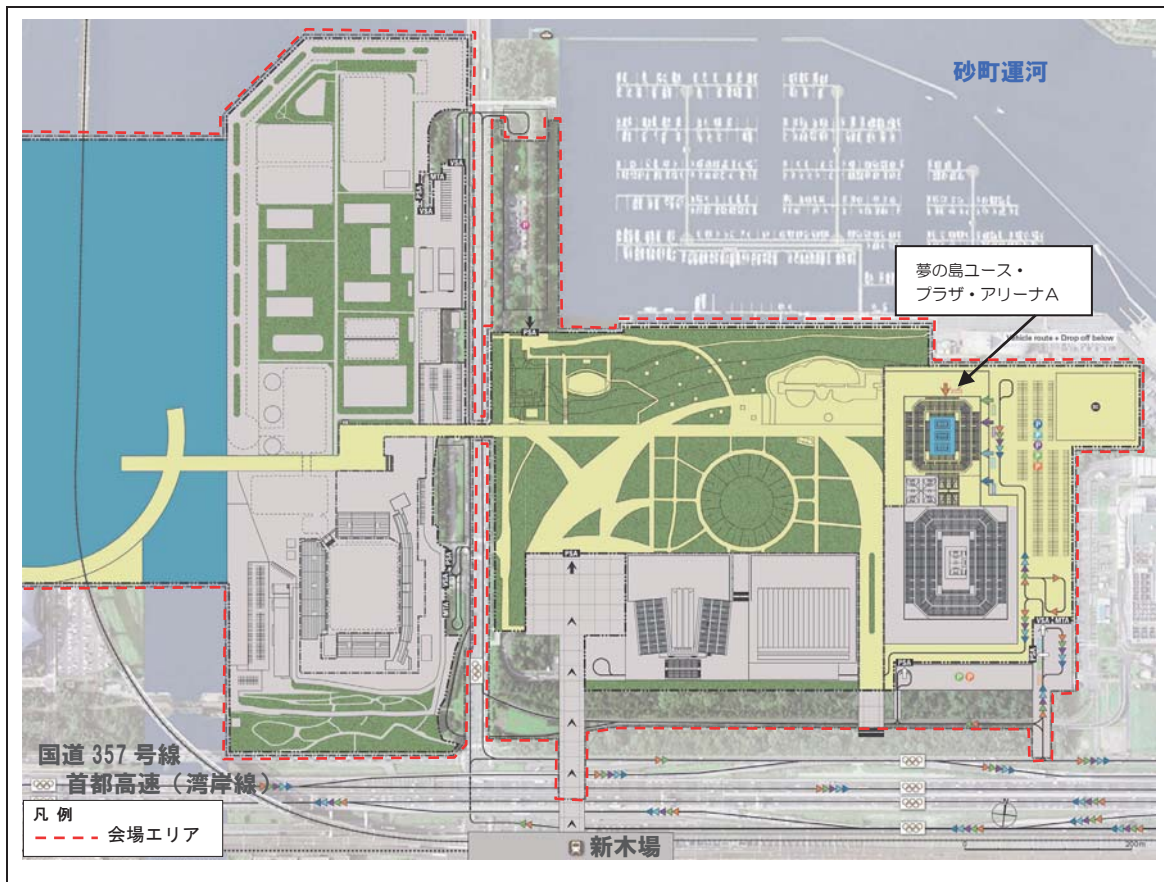
夢の島ユース・プラザ・アリーナAの概要は表 4.2-22 に、会場施設等の配置は、図 4.2-22 に示すとおりである。

夢の島ユース・プラザ・アリーナAは、バドミントン、車椅子バスケットボール及び車いすフェンシングの会場となる。大会後は、様々な室内競技大会やイベントを行うことができる大規模総合体育館となる予定である。

表 4.2-22 会場の概要（夢の島ユース・プラザ・アリーナA）

項目	内容
競技	オリンピック：バドミントン
	パラリンピック：車椅子バスケットボール、車いすフェンシング
会場計画の概要	新設恒久会場
	総座席数：7,000 席
	大会後の利用：多目的アリーナ

【イメージ図】



注) 会場エリアとは、会場事業計画地及びその周辺地域を指す。

図 4.2-22 会場施設等の配置図 (夢の島ユース・プラザ・アリーナA)

(23) 夢の島ユース・プラザ・アリーナB

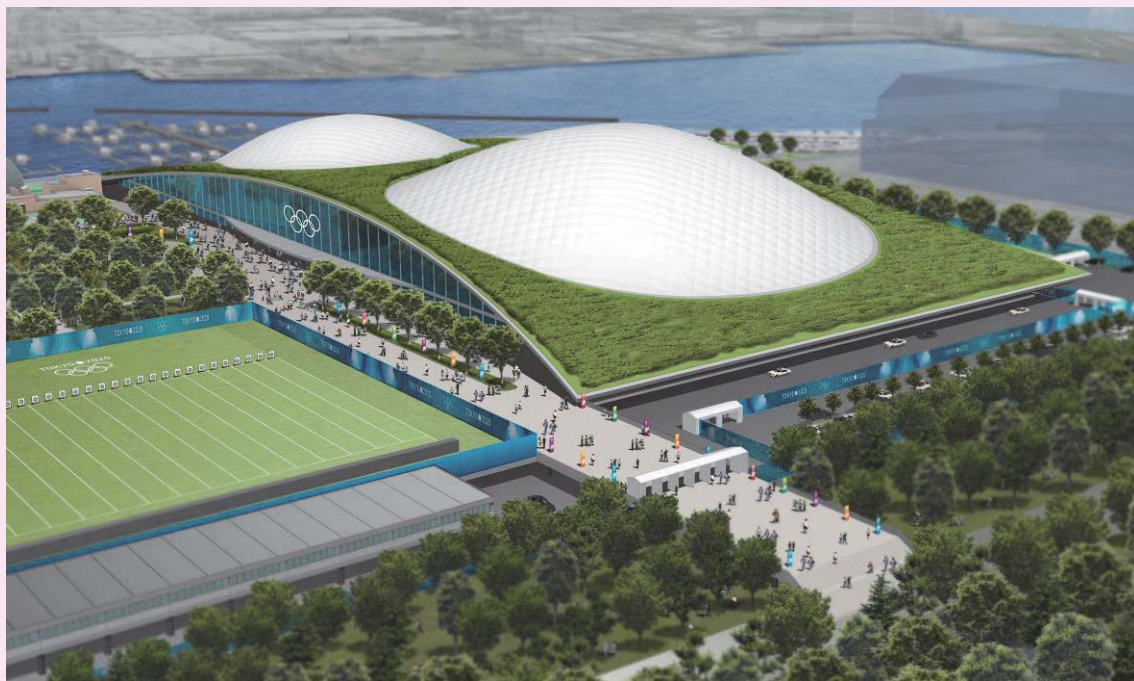
夢の島ユース・プラザ・アリーナBの概要は表 4.2-23 に、会場施設等の配置は、図 4.2-23 に示すとおりである。

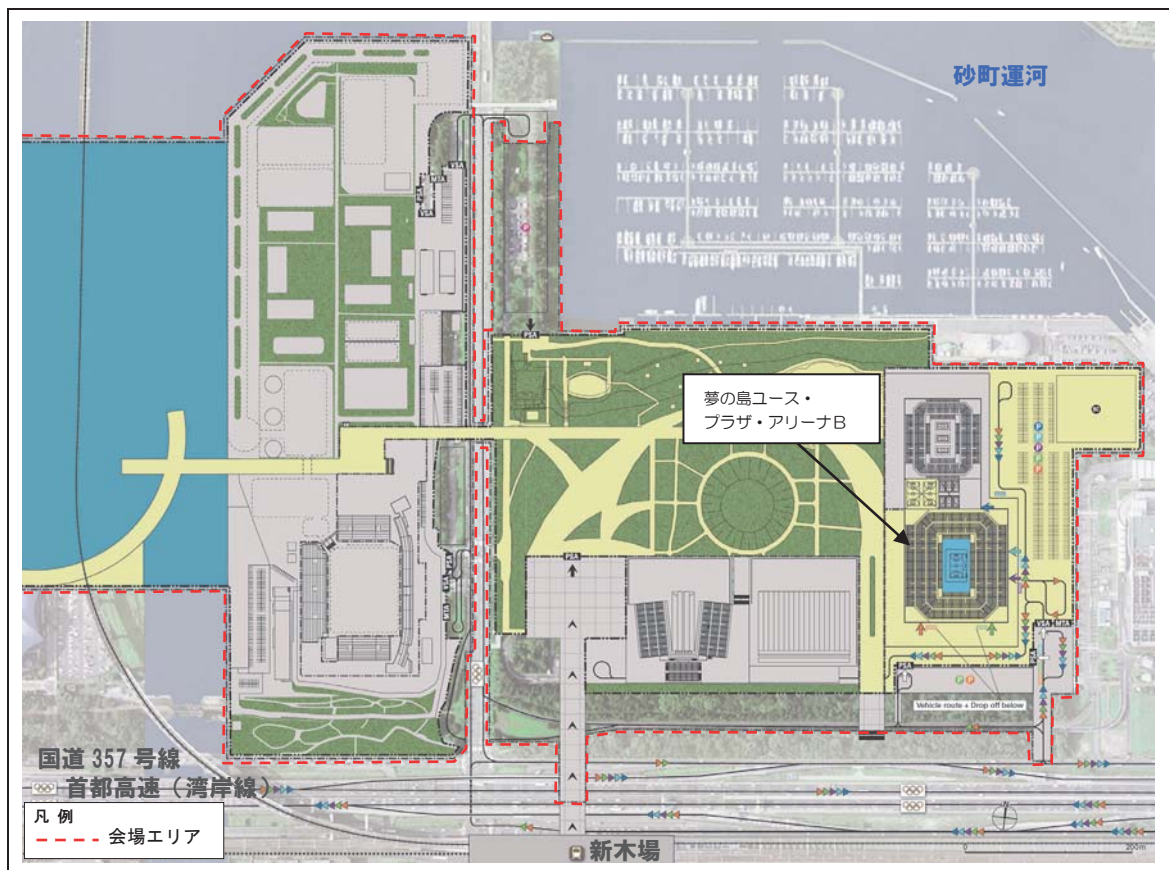
夢の島ユース・プラザ・アリーナBは、バスケットボールの会場となる。大会後は、様々な室内競技大会やイベントを行うことができる大規模総合体育館となる予定である。

表 4.2-23 会場の概要（夢の島ユース・プラザ・アリーナB）

項目	内容
競技	オリンピック：バスケットボール
	パラリンピック：車椅子バスケットボール
会場計画の概要	新設恒久会場
	総座席数：18,000 席
	大会後の利用：多目的アリーナ

【イメージ図】





注) 会場エリアとは、会場事業計画地及びその周辺地域を指す。

図 4.2-23 会場施設等の配置図（夢の島ユース・プラザ・アリーナB）

(24) 夢の島公園

夢の島公園の概要は表 4. 2-24 に、会場施設等の配置は、図 4. 2-24 に示すとおりである。

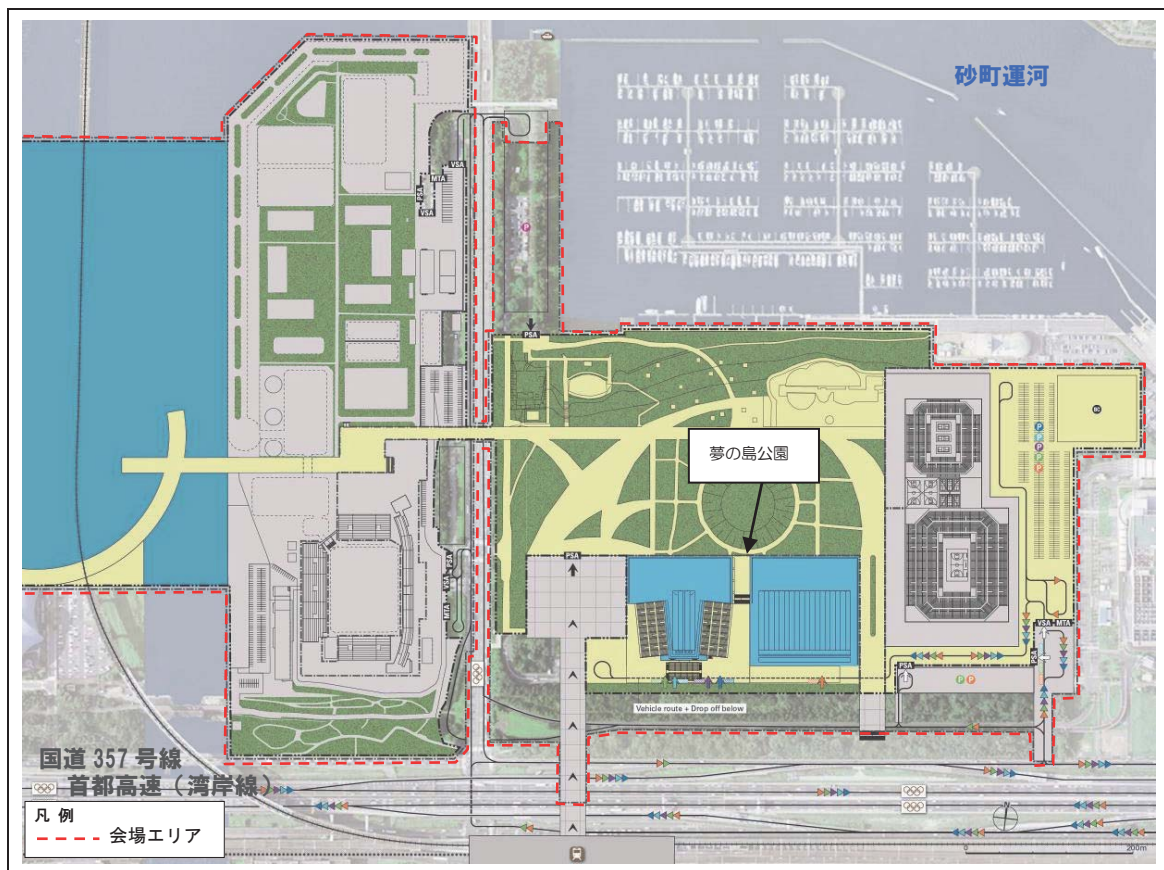
夢の島公園は、アーチェリーの会場となり、大会後は、周辺の緑地を取り込み、国内及び国際競技大会が開催できるアーチェリー場が残る予定である。

表 4. 2-24 会場の概要（夢の島公園）

項目	内容
競技	オリンピック：アーチェリー
	パラリンピック：アーチェリー
会場計画の概要	新設恒久会場
	総座席数：7,000 席
	大会後の利用：アーチェリー場

【イメージ図】





注) 会場エリアとは、会場事業計画地及びその周辺地域を指す。

図 4.2-24 会場施設等の配置図 (夢の島公園)

(25) 夢の島競技場

夢の島競技場の概要は表 4.2-25 に、会場施設等の配置は、図 4.2-25 に示すとおりである。

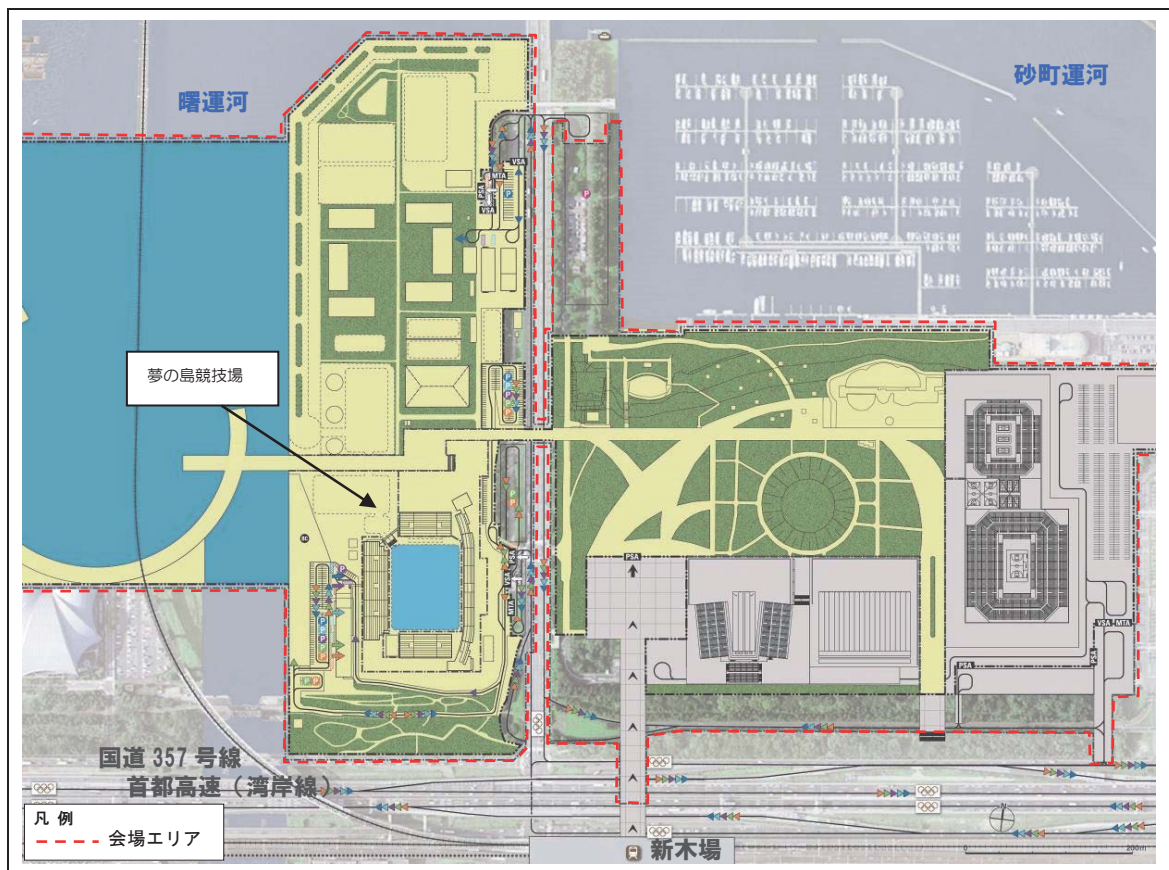
夢の島競技場は、馬術が行われ、大会後は、大会前と同様、地域住民の多目的スポーツの拠点として活用される予定である。

表 4.2-25 会場の概要（夢の島競技場）

項目	内容
競技	オリンピック：馬術（馬場馬術、障害馬術、総合馬術）
	パラリンピック：馬術
会場計画の概要	既存会場（改修なし）
	総座席数：14,000 席
	大会後の利用：スポーツセンター

【イメージ図】





注) 会場エリアとは、会場事業計画地及びその周辺地域を指す。

図 4.2-25 会場施設等の配置図（夢の島競技場）

(26) オリンピックアクアティクスセンター

オリンピックアクアティクスセンターの概要は表 4. 2-26 に、会場施設等の配置は、図 4. 2-26 に示すとおりである。

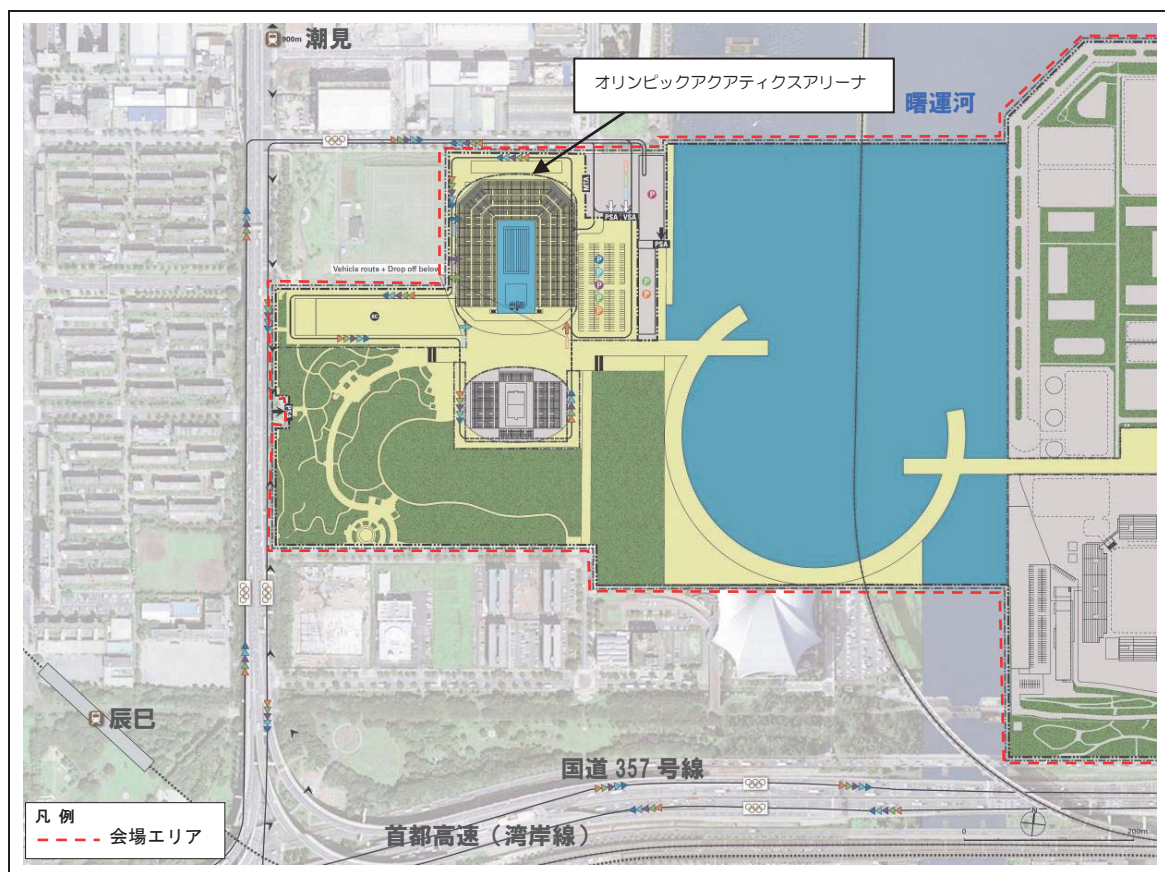
オリンピックアクアティクスセンターは、水泳（競泳、飛込、シンクロナイズドスイミング）の会場となる。大会後は、国際競技大会が開催でき、住民も使える水泳場として、収容可能人数を 2 万人から 5,000 人に縮小して、利用しやすい規模の水泳場に改修する予定である。

表 4. 2-26 会場の概要（オリンピックアクアティクスセンター）

項目	内容
競技	オリンピック：水泳（競泳、飛込、シンクロナイズドスイミング）
	パラリンピック：水泳
会場計画の概要	新設恒久会場
	総座席数：20,000 席
	大会後の利用：水泳場

【イメージ図】





注) 会場エリアとは、会場事業計画地及びその周辺地域を指す。

図 4.2-26 会場施設等の配置図（オリンピックアクアティクスセンター）

(27) ウォーターポロアリーナ

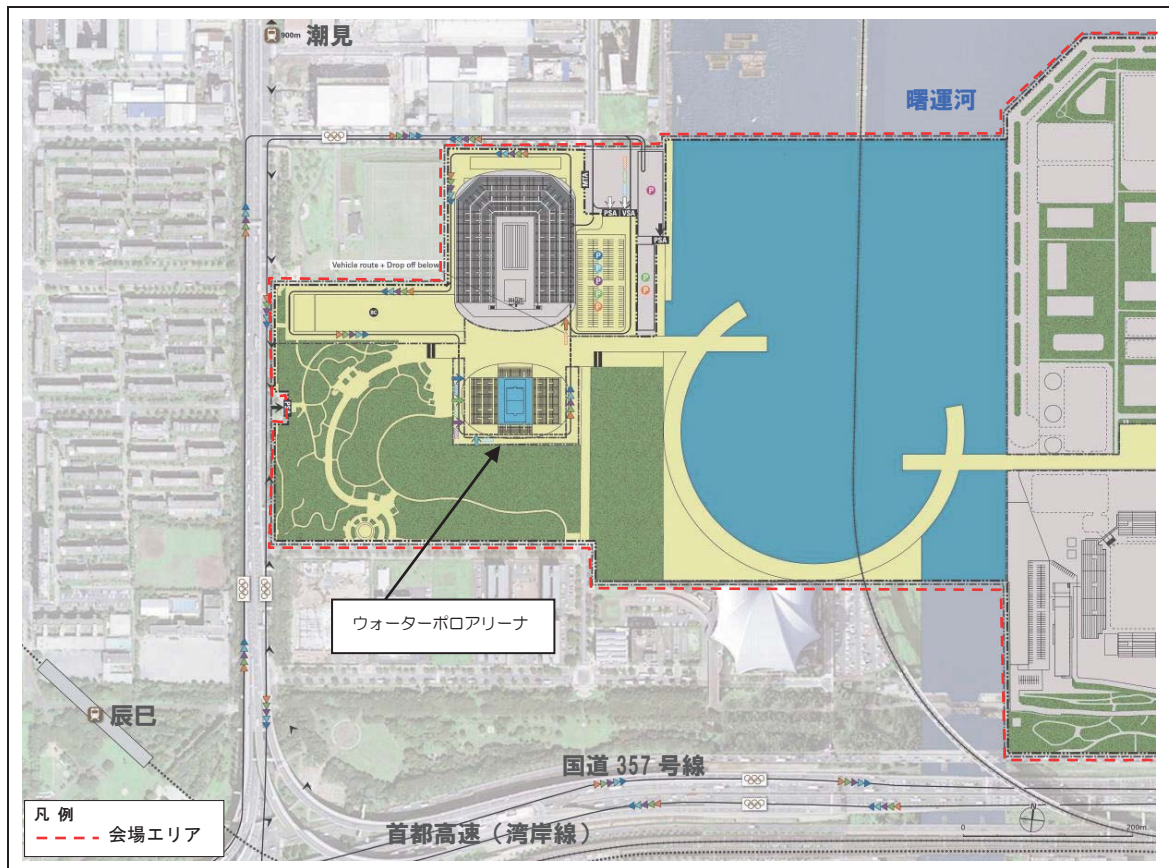
ウォーターポロアリーナの概要は表 4.2-27 に、会場施設等の配置は、図 4.2-27 に示すとおりである。

ウォーターポロアリーナは、水泳（水球）の会場となる。

表 4.2-27 会場の概要（ウォーターポロアリーナ）

項目	内容
競技	オリンピック：水泳（水球）
	パラリンピック：なし
会場計画の概要	仮設
	総座席数：6,500 席
	大会後の利用：水泳場

【イメージ図】



注) 会場エリアとは、会場事業計画地及びその周辺地域を指す。

図 4.2-27 会場施設等の配置図 (ウォーターポロアリーナ)

(28) 武蔵野の森総合スポーツ施設

武蔵野の森総合スポーツ施設の概要は表 4.2-28 に、会場施設等の配置は、図 4.2-28 に示すとおりである。

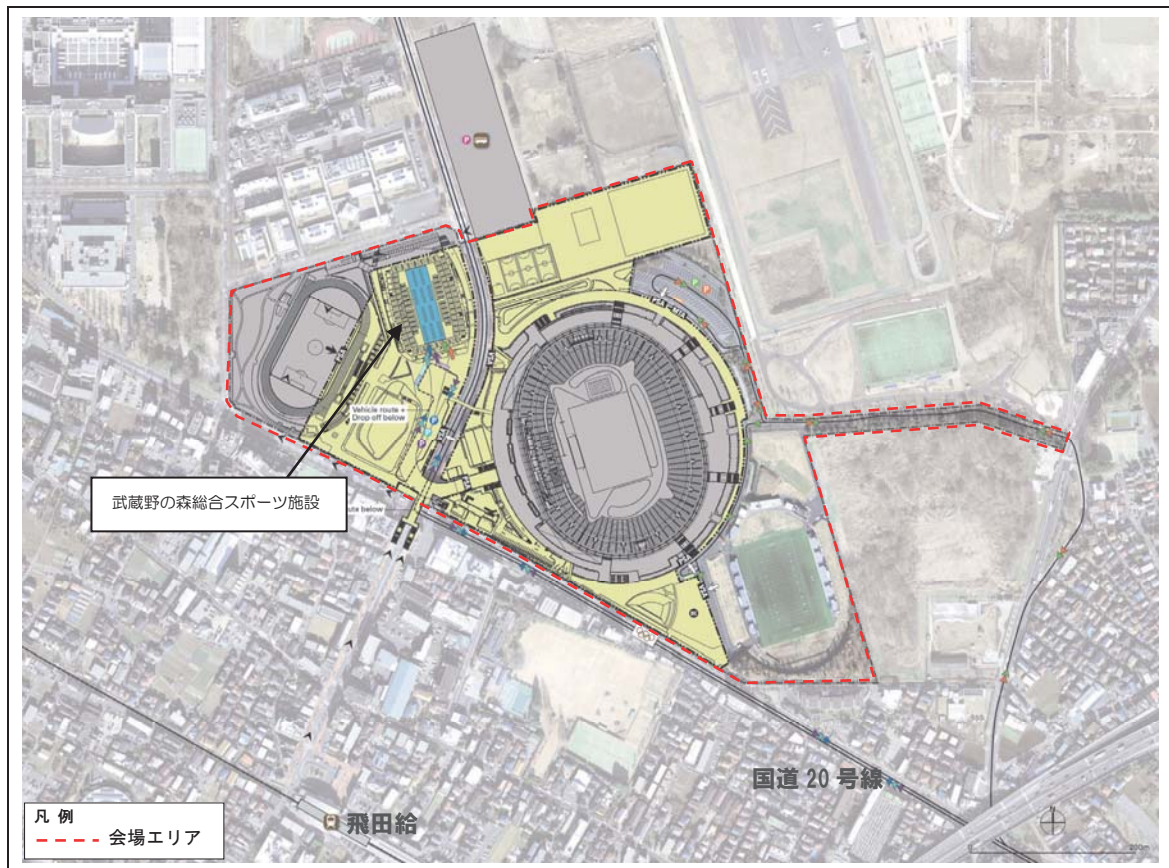
武蔵野の森総合スポーツ施設は、東京都西部の多摩地域に新設する施設であり、「2020 年の東京」の中で 4 大クラスターの一つに位置づけられ、2016 年に完成予定である。2020 年東京大会では、体育館が近代五種（フェンシング）の会場となる。

表 4.2-28 会場の概要（武蔵野の森総合スポーツ施設）

項目	内容
競技	オリンピック：近代五種（フェンシング）
	パラリンピック：なし
会場計画の概要	新設恒久会場
	総座席数：8,000 席
	大会後の利用：多目的アリーナ

【イメージ図】





注) 会場エリアとは、会場事業計画地及びその周辺地域を指す。

図 4.2-28 会場施設等の配置図（武蔵野の森総合スポーツ施設）

(29) 東京スタジアム

東京スタジアムの概要は表 4.2-29 に、会場施設等の配置は、図 4.2-29 に示すとおりである。

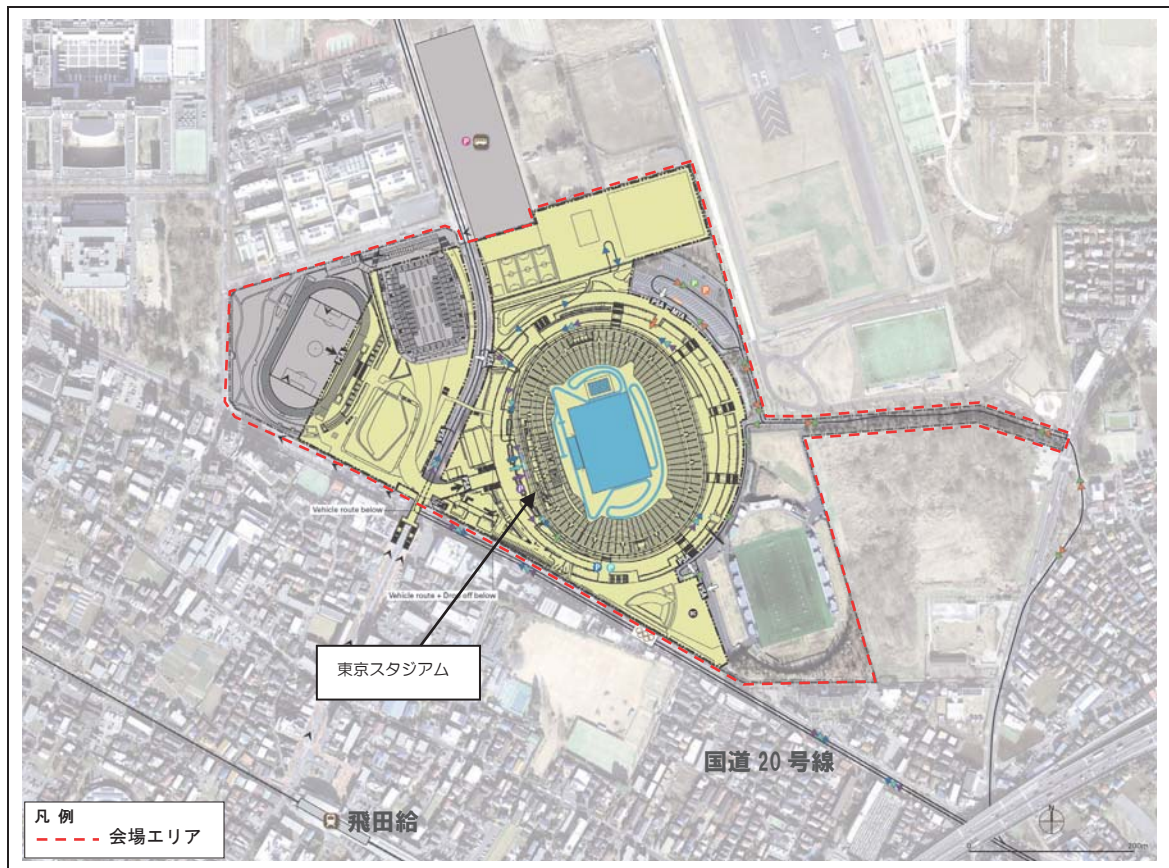
東京スタジアムは、Ｊリーグ等国内外の大会が行われている競技場であり、2002 F I F A ワールドカップ TM の際に使用された。

表 4.2-29 会場の概要（東京スタジアム）

項目	内容
競技	オリンピック：近代五種(水泳、馬術、ランニング、射撃)、サッカー(予選)
	パラリンピック：なし
会場計画の概要	既存会場（改修なし）
	総座席数：50,000 席
	大会後の利用：多目的スタジアム

【イメージ図】





注) 会場エリアとは、会場事業計画地及びその周辺地域を指す。

図 4.2-29 会場施設等の配置図（東京スタジアム）

(30) 武蔵野の森公園

武蔵野の森公園の概要は表 4.2-30 に、会場施設等の配置は、図 4.2-30 に示すとおりである。

武蔵野の森公園は、東京都西部の多摩地域にある都立の公園であり、公園内にはサッカー場や野球場、テニスコートなどもある。2020 年東京大会では、自転車競技（ロードレース）のゴール地点となる。

表 4.2-30 会場の概要（武蔵野の森公園）

項目	内容
競技	オリンピック：自転車競技（ロードレース：ゴール）
	パラリンピック：なし
会場計画の概要	仮設
	総座席数：1,000 席
	大会後の利用：公園

【イメージ図】



注) 会場エリアとは、会場事業計画地及びその周辺地域を指す。

図 4.2-30 会場施設等の配置図（武蔵野の森公園）

(31) 選手村

選手村の概要は表 4.2-31 に、会場施設等の配置は、図 4.2-31 に示すとおりである。

選手村は、ヘリテッジゾーンと東京ベイゾーンが交わる急速に開発が進んでいるウォーターフロントである晴海ふ頭に位置しており、2020 年東京大会の地理的な中心にあるとともに大会コンセプトの中心である。

2020 年東京大会の競技会場は、非常にコンパクトな施設配置であり、東京圏にある 33 の競技会場のうち 28 会場が半径 8km 圏内に位置する。その中心に選手村は位置しており、東京のエンターテインメントの中心地や繁華街にも近接している。

表 4.2-31 会場の概要（選手村）

項目	内容
会場計画の概要	新設恒久会場
	大会後の利用: 住宅、国際交流関連施設を予定

【イメージ図】



注) 会場エリアとは、会場事業計画地及びその周辺地域を指す。

図 4.2-31 会場施設等の配置図（選手村）

4.2.2 会場等の諸元

各会場等のスケジュールは表 4.2-32 に、諸元は、表 4.2-33(1)、(2)に示すとおりである。

なお、各会場等のスケジュール及び諸元は、現時点での計画であり、今後、計画の進捗に伴い変更される可能性がある。

表 4.2-32 会場等のスケジュール

No.	会場等の名称	会場建設状況	オリンピックプロジェクトのために既に確保した土地の%	建設スケジュール		
				恒久工事		
				開始日	完了日	継続期限
1	オリンピックスタジアム	新規	100%	2015/10	2019/3	1, 230
2	東京体育館	既存	100%	-	-	-
3	国立代々木競技場	既存	100%	-	-	-
4	日本武道館	既存(改修工事あり)	100%	2017/12	2019/5	510
5	皇居外苑	仮設	100%	-	-	-
6	東京国際フォーラム	既存	100%	-	-	-
7	国技館	既存	100%	-	-	-
8	有明アリーナ	新設	100%	2016/12	2019/5	870
9	有明 BMX コース	仮設	100%	-	-	-
10	有明ベロドローム	仮設	100%	-	-	-
11	有明体操競技場	仮設	100%	-	-	-
12	有明テニスの森	既存(改修工事あり)	100%	2017/12	2019/5	510
13	お台場海浜公園	仮設	100%	-	-	-
14	潮風公園	仮設	100%	-	-	-
15	東京ビッグサイト	既存(改修工事あり)	100%	-	-	-
16	大井ホッケー競技場	新設	100%	2017/12	2019/5	510
17	海の森クロスカントリーコース	仮設	100%	-	-	-
18	海の森水上競技場	新設	100%	2016/6	2019/5	1, 050
19	海の森マウンテンバイクコース	仮設	100%	-	-	-
20	若洲オリンピックマリーナ	新設	100%	2015/12	2018/5	870
21	葛西臨海公園	新設	100%	2017/12	2019/5	510
22	夢の島ユース・プラザ・アリーナ A	新設	100%	2016/10	2019/5	930
23	夢の島ユース・プラザ・アリーナ B	新設	100%	2016/10	2019/5	930
24	夢の島公園	新設	100%	2018/6	2019/5	330
25	夢の島競技場	既存	100%	-	-	-
26	オリンピックアクアティクスセンター	新設	100%	2016/10	2019/5	930
27	ウォーターポロアリーナ	仮設	100%	-	-	-
28	武蔵野の森総合スポーツ施設	新設	100%	2013/11	2016/10	1, 050
29	東京スタジアム	既存	100%	-	-	-
30	武蔵野の森公園	仮設	100%	-	-	-
31	選手村	新設	100%	2016/6	2019/6	1, 080

表 4. 2-33(1) 会場等の諸元 (No. 1～No. 18)

No	会場等の名称	規模等要件						施設内容			競技名		インパクト要因等				
		会場面積 (ha)	施設面積 (㎡)	恒設 延床面積 (㎡)	仮設延床面積(㎡) プレハブ外	プレハブ	建物構造	階数	新設	仮設	改修 あり	既設 改修 なし	オリンピック競技	パラリンピック競技	総座席数	駐車場台数	
1	オリンピックスタジアム	44.9	—	290,000	—	2,800	(計画中)	地上8階	○				開・閉会式、陸上競技、サッカー(決勝)、ラグビー	開・閉会式、陸上競技	80,000	760	
2	東京体育館		24,900	—	—	—	1,000	RC造・SRC造・S造	地上3階、地下2階			○		卓球	卓球	8,000	180
3	国立代々木競技場	8.7	26,100	—	2,800	3,800	RC造・SRC造	地上2階、地下2階				○	ハンドボール	ウィルチェアアーラゲビー	12,000	180	
4	日本武道館	9.3	11,100	1,000	—	4,600	RC造・S造	地上3階、地下2階			○		柔道	柔道	11,000	180	
5	皇居外苑	10.2	7,200	—	—	7,200	S造	地上1階		○			自転車(ロードレーススタート)	—	1,000	460	
6	東京国際フォーラム	3.1	21,000	—	—	—	RC造・S造	地上11階、地下3階				○	ウエイトリフティング	—	5,000	180	
7	国技館	3.2	15,800	—	1,600	2,000	SRC造	地上3階、地下2階				○	ボクシング	—	10,000	170	
8	有明アリーナ	42.6	19,400	41,400		700	(計画中)	地上3階	○				バレーボール(インドア)	シッティングバレーボール	15,000	260	
9	有明BMXコース		5,700	—	—	7,400	—	S造	地上2階		○			自転車競技(BMX)	—	5,000	370
10	有明ベロドローム		13,900	—	—	25,000	—	S造	地上2階		○			自転車競技(トラック・レース)	自転車競技(トラック・レース)	5,000	370
11	有明体操競技場	15.8	13,300	—	—	29,100	S造	地上3階		○			体操	ゴールボール	12,000	260	
12	有明テニスの森		40,900	17,800	—	—	1,900	SRC造・RC造	地上1階～4階		○			テニス	車椅子テニス	20,500	300
13	お台場海浜公園	58.6	6,100	—	—	6,100	S造	地上1階		○			トライアスロン、水泳(マラソン10km)	自転車競技(ロードレース)、パラトライアスロン	10,000	300	
14	潮風公園		4,900	—	—	—	7,200	S造	地上2階		○			バレーボール(ビーチ)	—	12,000	250
15	東京ビッグサイト	30.8	172,000	—	—	14,800	S造・RC造・SRC造	地上3階、地下1階			○		レスリング、フエンシング、テコンドー	パワーリフティング、ボッチャ	18,000	360	
16	大井町ホッケー競技場	7.1	7,300	4,700	—	3,700	S造	地上2階	○				ホッケー	視覚障害者5人制サッカー、脳性麻痺者7人制サッカー	15,000	180	
17	海の森クロスカントリーコース	60.4	9,300	—	1,600	7,600	S造	地上2階		○			馬術(クロスカンントリー)	—	0	510	
18	海の森水上競技場	85.2	18,000	9,400	—	11,800	S造	地上2階	○				ボート、カヌー(スプリント)	ボート、カヌー	14,000	540	

表 4. 2-33(2) 会場等の諸元 (No. 19～No. 31)

No	会場等の名称	規模等要件						施設内容			競技名		インパクト要因等			
		会場面積 (ha)	施設面積 (㎡)	恒設 延床面積 (㎡)	仮設延床面積(㎡)		建物構造	階数	新設	仮設	改修 あり	既設 改修 なし	オリンピック競技	パラリンピック競技	総座席数	駐車場台数
					プレハブ外	プレハブ										
19	海の森マウンテンバイクコース	56.9	7,400	—	—	7,400	S造	地上1階	○				自転車競技(マウンテンバイク)	—	2,000	320
20	若洲オリンピックツクマリーナ	25.7	9,100	2,000	—	7,100	S造	地上1階	○				セーリング	セーリング	2,000	420
21	葛西臨海公園	18.2	8,100	800	—	7,200	S造	地上1階	○				カヌー(スラローム)	—	12,000	190
22	夢の島ユース・クラブザ・アリーナA	89.7	55,600	64,500	—	1,500	(計画中)	地上4階 (一部地下あり)	○				バドミントン、バスケットボール	車椅子バスケットボール、車椅子フエッセンシング	25,000	430
23	夢の島ユース・クラブザ・アリーナB		9,500	—	—	—	14,800	S造	地上4階	○				アーチェリー	アーチェリー	7,000
24	夢の島公園	3.8	23,300	—	11,500	11,700	S造	地上2階				○	馬術(競技馬術、障害馬術)	馬術	14,000	530
25	夢の島競技場		44,200	43,200	49,800	4,200	(計画中)	地上4階、地下1階	○				水泳(競泳、飛込、シンクロナイズドスイング)	水泳	26,500	330
26	オリンピックツクマリーナ		26,900	—	—	—	(計画中)	地上3階	○				近代五種(フェンシング)	—	8,000	210
27	武蔵野の森総合スポーツ施設	13.5	45,600	—	—	1,600	RC造・SRC造・PC造・S造	地上5階、地下1階				○	近代五種(水泳、馬術、ラン、射撃)、サッカー(予選)	—	50,000	230
28	東京スタジアム	14.6	6,900	—	—	6,900	S造	地上1階		○			自転車競技(ロード・レースゴール)	—	1,000	520
29	武蔵野の森公園	70.2	125,300	368,300	13,000	109,700	(計画中)	地上14階	○				住居棟、各種運営施設			1,120
30	選手村															
31																

4.2.3 競技

開催競技のうち、屋外の敷地外で実施される競技の概要は表 4.2-34 に、競技の開催場所及びコースは、図 4.2-32 に示すとおりである。

表 4.2-34 屋外の敷地外で実施される競技の概要

競技No.	競技		類型
	オリンピック	パラリンピック	
1	陸上競技（マラソン）	陸上競技（マラソン）	陸 域（敷地外）
2	陸上競技（競歩）	—	
3	自転車競技（ロード・レース）	自転車競技（ロード・レース）	
4	トライアスロン	トライアスロン	
5	水泳（マラソン 10km）	—	水域
6	カヌー（スプリント）	カヌー	
7	カヌー（スローム）	—	
8	ボート	ボート	
9	セーリング	セーリング	

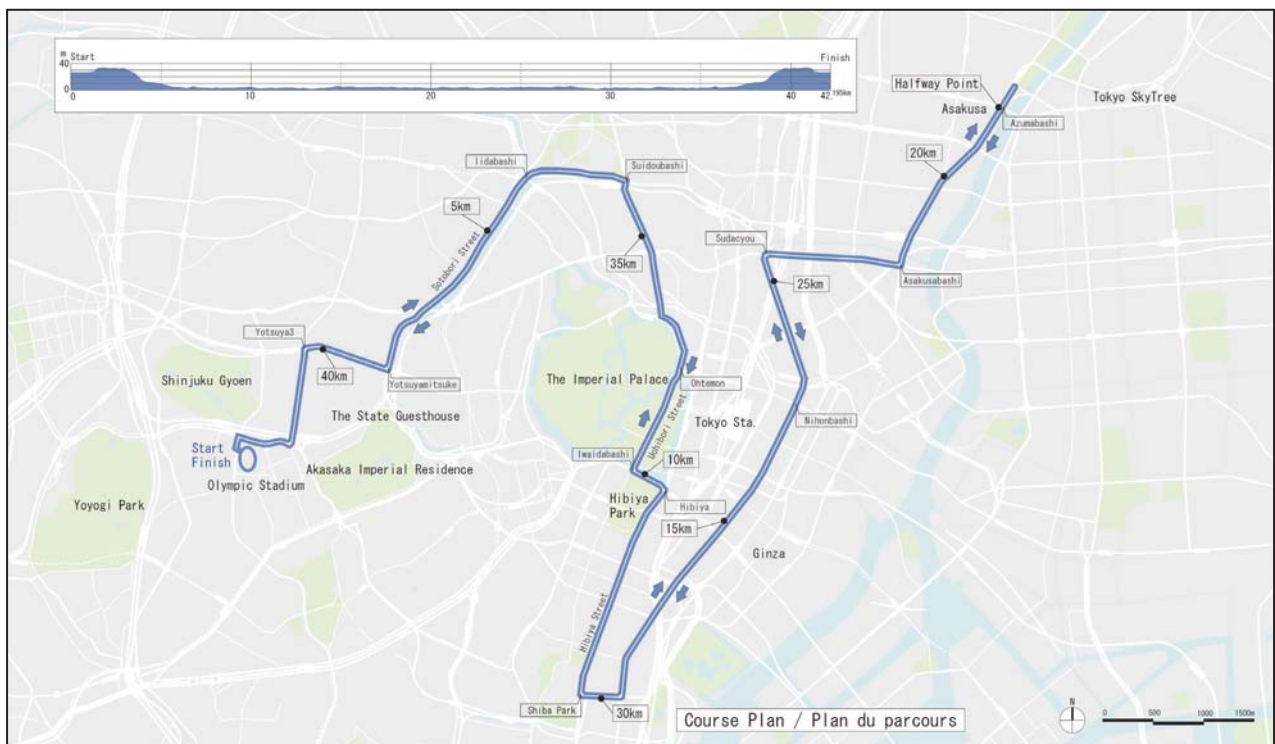


図 4.2-32(1) 屋外競技コース：陸上競技（マラソンコース）

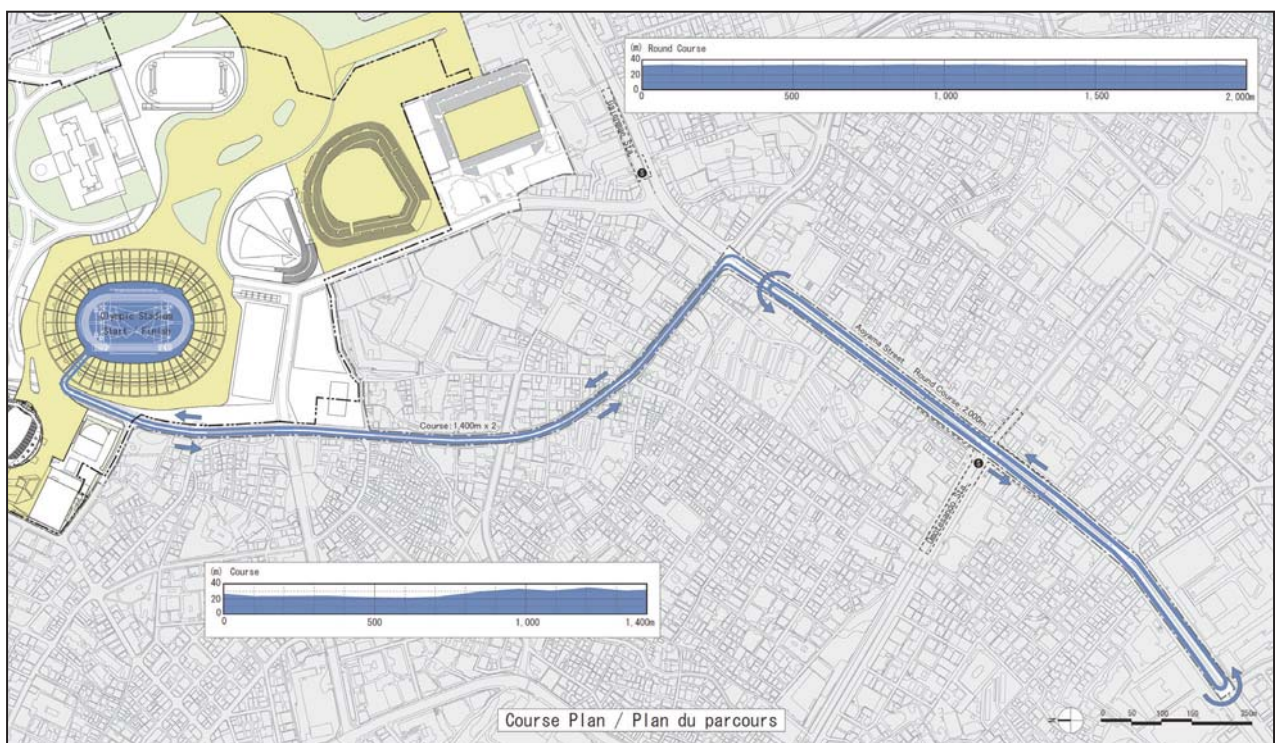


図 4.2-32(2) 屋外競技コース：陸上競技（競歩コース）

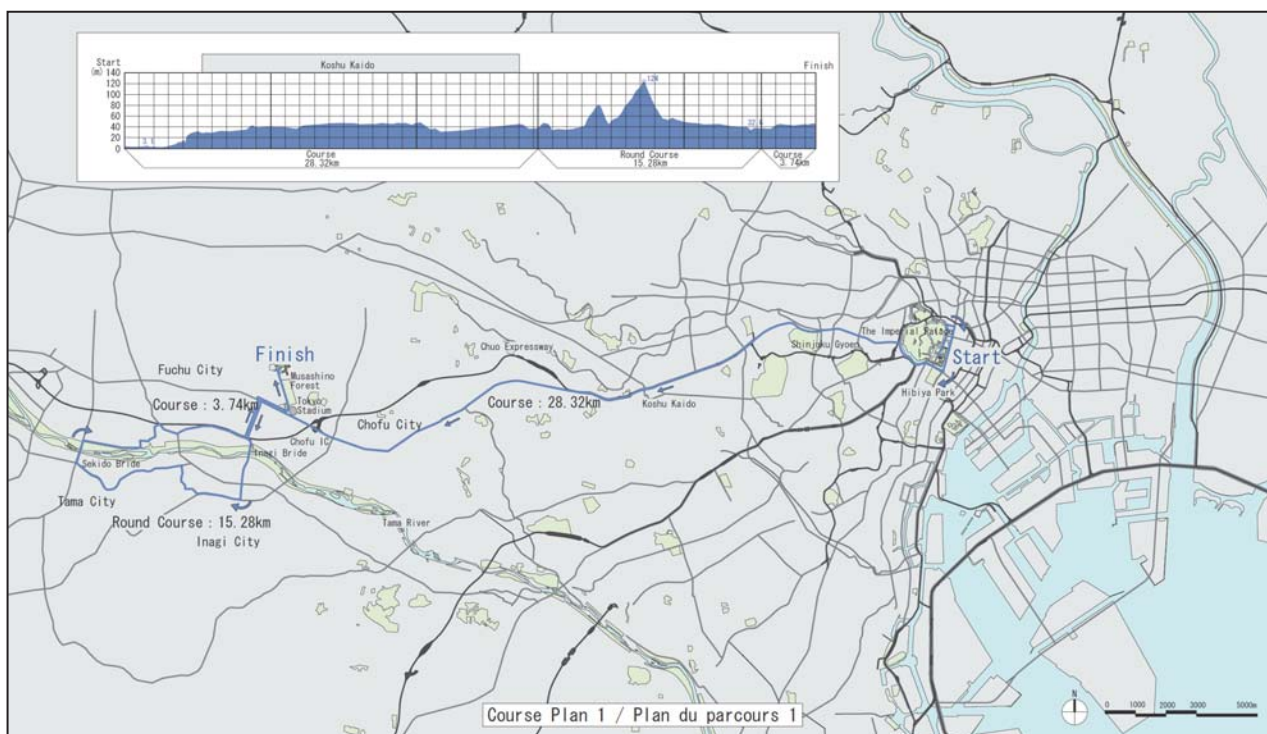


図 4.2-32(3) 屋外競技コース：自転車競技（ロード・レースコース）

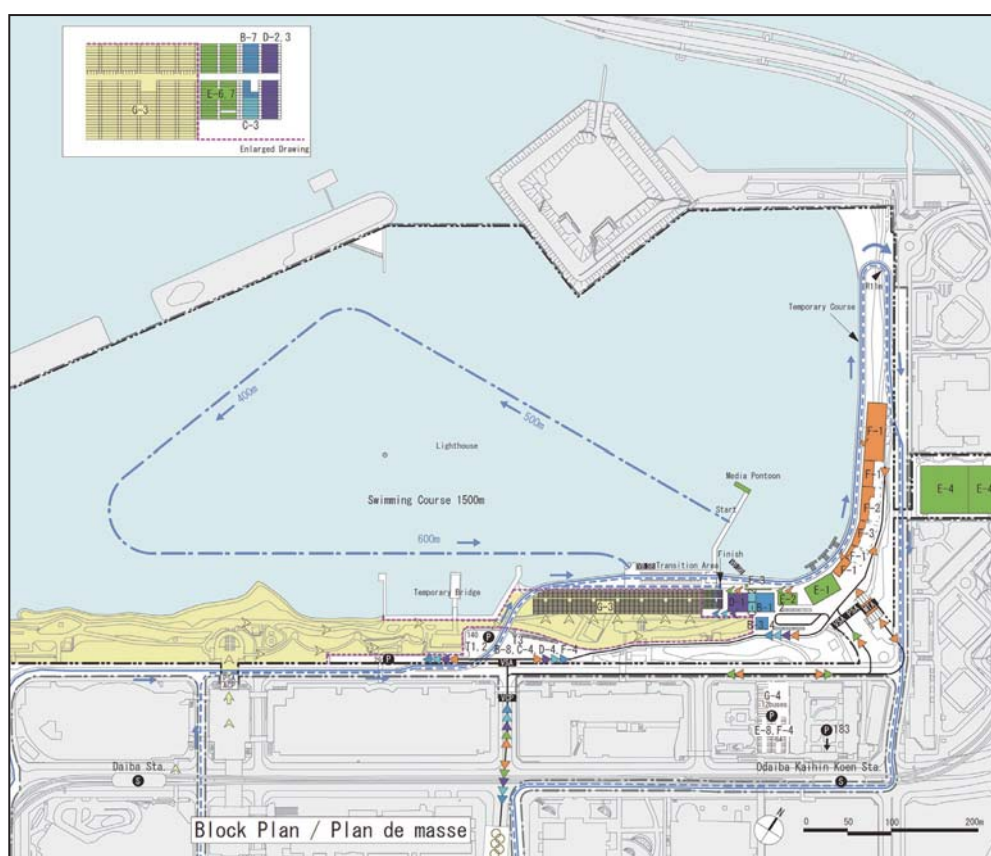


図 4.2-32(4) 屋外競技コース：トライアスロンコース

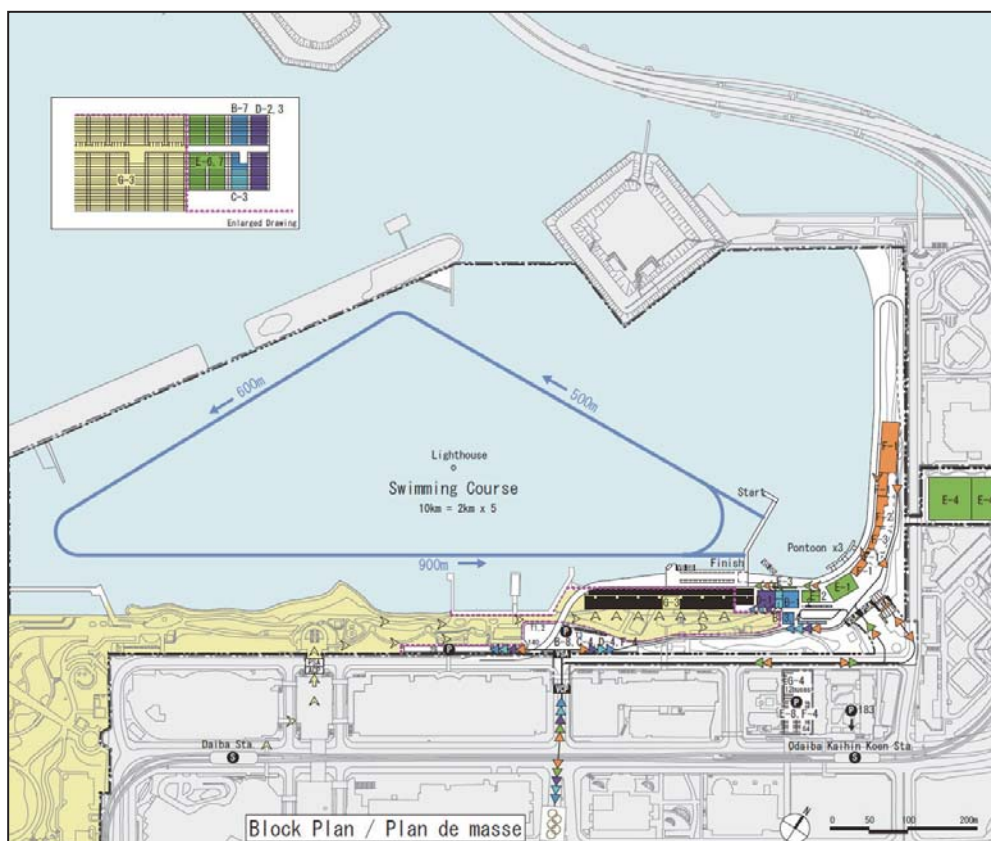


図 4.2-32(5) 屋外競技コース：水泳（マラソン 10km コース）

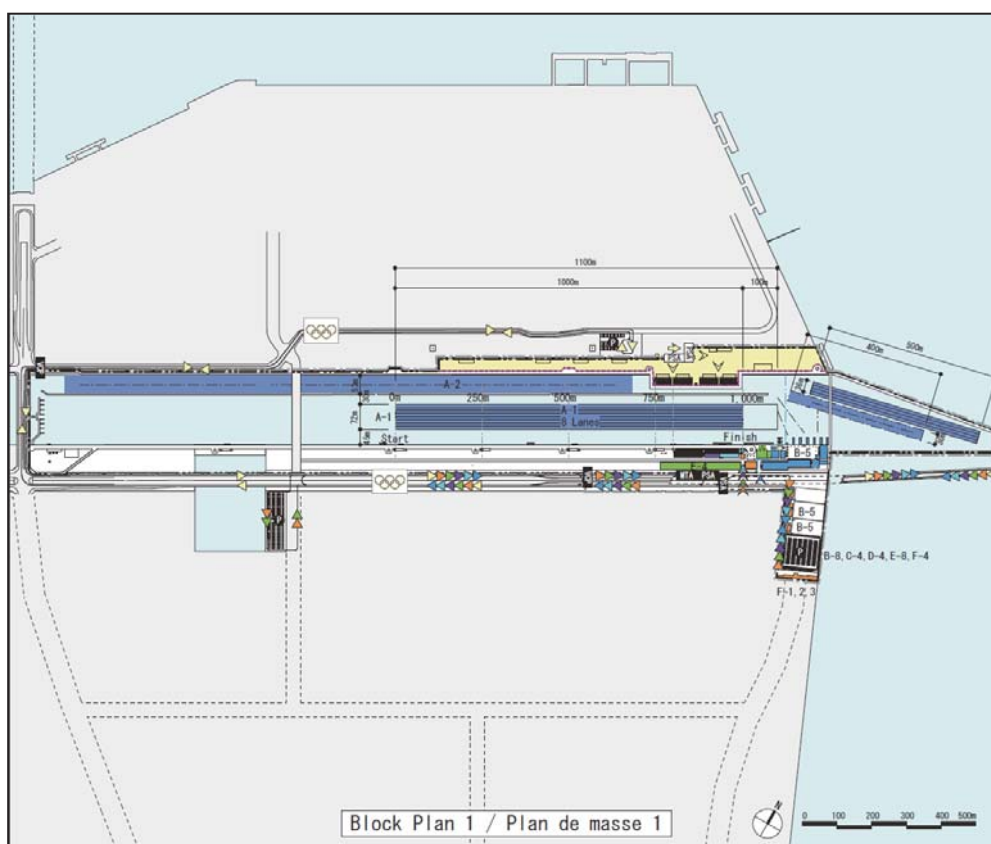


図 4.2-32(6) 屋外競技コース：カヌー（スプリントコース）

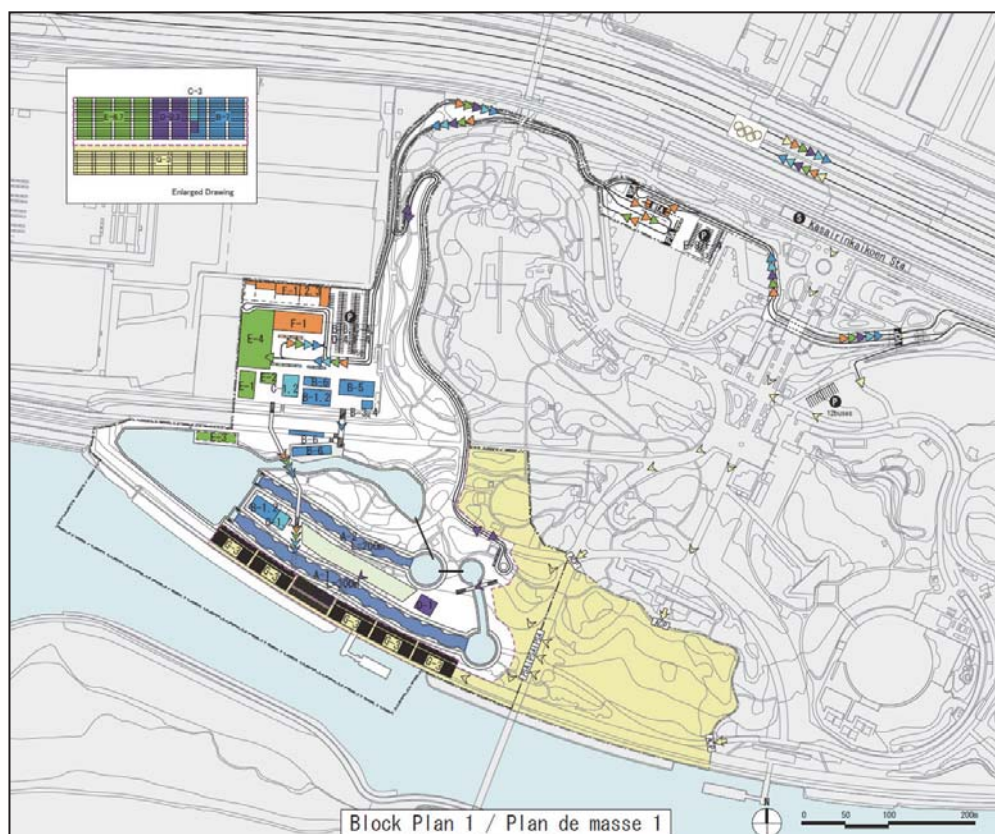


図 4.2-32(7) 屋外競技コース：カヌー（スラロームコース）

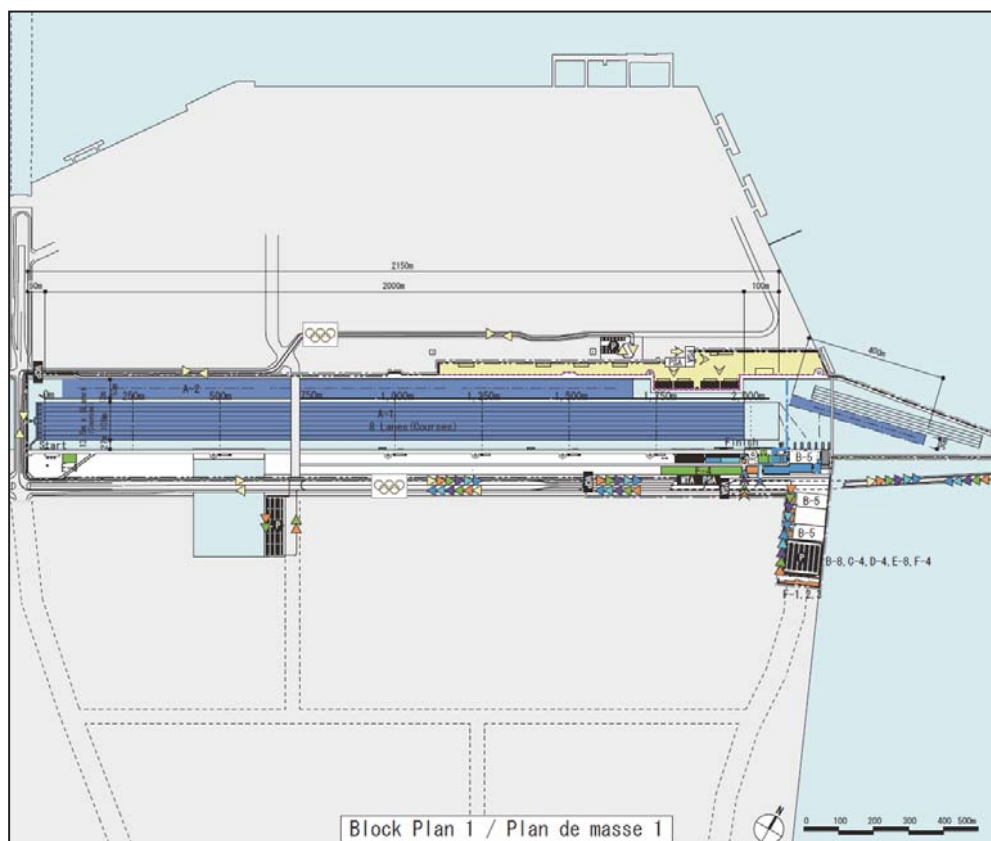


図 4.2-32(8) 屋外競技コース：ボートコース

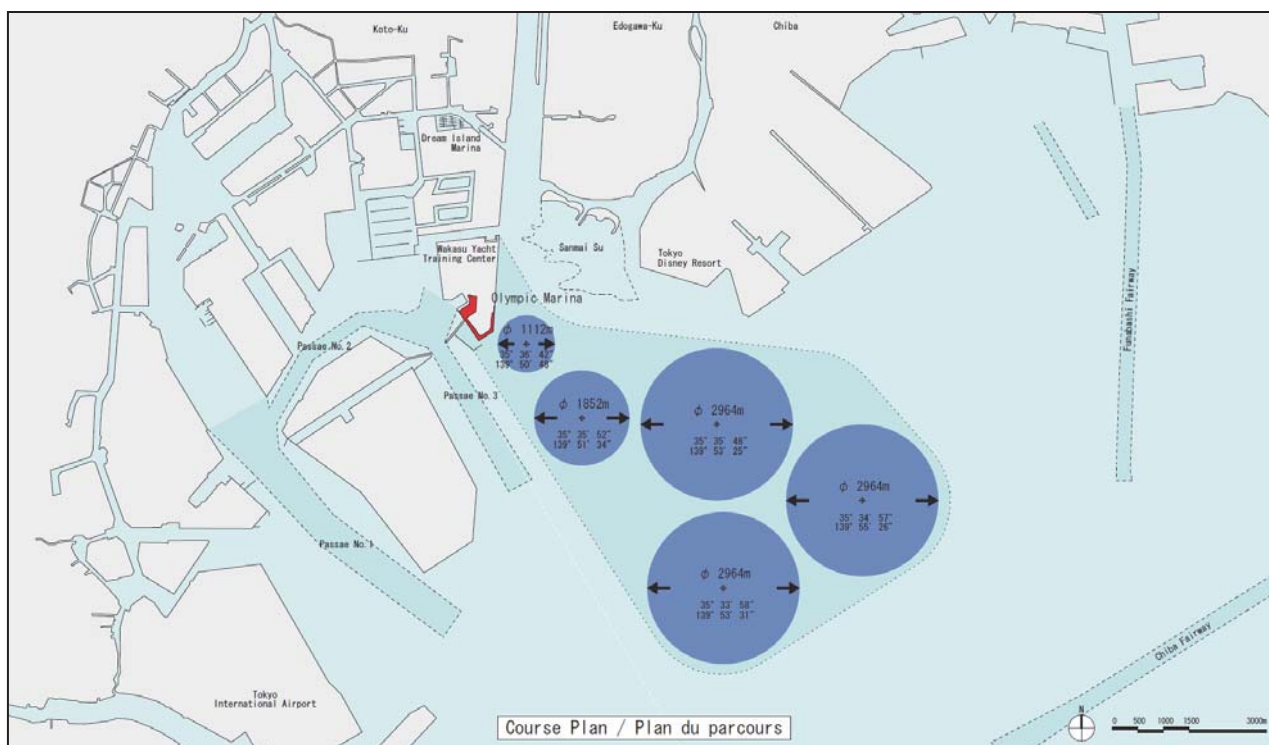


図 4.2-32(9) 屋外競技コース：セーリングコース

4.3 立地の適地性の観点からの環境配慮

4.3.1 既存会場の最大限利用

2020 年東京大会の競技会場の約 4 割は既存の会場を利用し、新たな会場は市街地の未利用地や既存会場の敷地内等に建設するため、環境への影響は大幅に削減される。

4.3.2 交通インフラの活用

東京の輸送インフラは、都心部まで高速道路が整備されている道路網、世界有数の鉄道網、広範囲を網羅し効率性の高い鉄道システムを補完するバスの運行及びその路線などの公共交通網が効果的・効率的に配置・運用されており、2020 年東京大会に成功・安全・喜びをもたらす重要な資産となっている。

オリンピック競技大会開催時に利用する輸送インフラについては、既存の輸送インフラに加え、「2020 年の東京」などの計画に定められ、これら計画の達成で完成する輸送インフラにより、大会だけのための新設のインフラ整備を行うことなく、2020 年東京大会の成功を保証する十分な規模になる。

4.3.3 生活及び生活環境への配慮

2020 年東京大会の 37 競技会場のうち、14 会場が既存施設である。また、27 会場を選手村から 8km 圏内に配置することで、公共交通機関を最大限利用することにより、移動による環境負荷を最小化するとともに、大会の効率的な運営にも寄与する。

2020 年東京大会では、自動車の使用等に伴う大気汚染及び地球温暖化や、建設計画・工事・運営に伴う騒音公害については、法令・条例による厳しい規制を遵守することは当然として、低公害かつ低燃費車両や、低騒音型建設機械などの日本の優れた環境技術を活用することにより、さらなる環境負荷の最小化を図る。